【学部共通科目】

講義コード	科目名 専修・科目	講義形態	回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
0012001	哲学基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木2	大河内,安井,笠木,林(和雄),香西	コーディネーター:大河内	学部共通科目1
0022001	東洋文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	金光,伊藤(令),奥田,黄,古閑	コーディネーター:金光	学部共通科目2
0022002	東洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木5	金光,高橋(健),畑田,陸,渡邉	コーディネーター:金光	学部共通科目3
0032001	西洋文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	水2	小林,山下(裕大),中村(満),久保田,霜田,山下(大吾),網谷	コーディネーター:小林	学部共通科目4
0032002	西洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	前期	集中	小林,青山,宮坂,土谷,庄子,山下(大輔),柴田	コーディネーター:小林	学部共通科目5
0042001	歴史基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木1	吉川,高木,高野,加藤,村上(孟),佐藤(早),田口,勅使河原,伊藤(啓),岩永,山下(耕平)	コーディネーター:吉川	学部共通科目6
0042002	歴史基礎文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木1	吉川,斎藤,松島,小野木,中村(慎),辻田,田中(悠),法貴,酒嶋,藤田,中辻,平良,林(和樹)	コーディネーター:吉川	学部共通科目7
0052001	行動・環境文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	太郎丸,山岡,古本,翁,徐,堂本,山下(泰幸),鄭,田多井	コーディネーター:太郎丸	学部共通科目8
0052002	行動・環境文化学系	ゼミナールII	1-4	2	後期	木5	太郎丸,別役,大谷,桑林,吉,上﨑,神品,Guillaume,戸梶	コーディネーター:太郎丸	学部共通科目9
0062001	基礎現代文化学系	ゼミナールI	1-4	2	前期	木5	松永,喜多,白木,鈴木(真),TATARCZUK,平岡,福田	コーディネーター:松永,喜多	学部共通科目10
9639001	ヘブライ語(初級)	語学	3-4	2	前期	火3	手島　勲矢	学部共通科目	学部共通科目11
9640001	ヘブライ語(中級)	語学	3-4	2	後期	火3	手島　勲矢	学部共通科目	学部共通科目12
9616001	ｻﾝｽｸﾘｯﾄ(2時間コース)	語学	1-4	4	通年	月4	山口　周子	学部共通科目	学部共通科目13
9617001	ｻﾝｽｸﾘｯﾄ(4時間コース)	語学	1-4	8	通年	月5,木5	Tao PAN	学部共通科目	学部共通科目14
9633001	ヒンディー語(初級)	語学	1-4	4	通年	金4,金5	虫賀　幹華	学部共通科目	学部共通科目15
9659001	ヒンディー語(中級)I	語学	2-4	2	前期	火3	西岡　美樹	学部共通科目	学部共通科目16
9660001	ヒンディー語(中級)II	語学	2-4	2	後期	火3	西岡　美樹	学部共通科目	学部共通科目17
9628001	チベット語(初級)	語学	2-4	2	前期	水1	宮崎　泉	学部共通科目	学部共通科目18
9629001	チベット語(初級)	語学	2-4	2	後期	水1	宮崎　泉	学部共通科目	学部共通科目19
9630001	チベット語(中級)	語学	3-4	2	前期	月1	高橋　慶治	学部共通科目	学部共通科目20
9630002	チベット語(中級)	語学	3-4	2	後期	月1	高橋　慶治	学部共通科目	学部共通科目21
9664001	ギリシア語(初級I)	語学	2-4	2	前期	金4	西村　洋平	学部共通科目	学部共通科目22
9665001	ギリシア語(初級II)	語学	2-4	2	後期	金4	西村　洋平	学部共通科目	学部共通科目23
9615001	ギリシア語(4時間コース)	語学	2-4	8	通年	月1,木1	広川　直幸	学部共通科目	学部共通科目24
9666001	ラテン語(初級I)	語学	2-4	2	前期	水2	勝又　泰洋	学部共通科目	学部共通科目25
9667001	ラテン語(初級II)	語学	2-4	2	後期	水2	勝又　泰洋	学部共通科目	学部共通科目26
9645001	ラテン語(4時間コース)	語学	2-4	8	通年	月2,金2	佐藤　義尚	学部共通科目	学部共通科目27
9661001	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	前期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目28
9662001	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	後期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目29
9642001	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	前期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目30
9642002	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	後期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	学部共通科目31
9646001	ロシア語(初級)	語学	1-4	2	後期	水2	田中　大	学部共通科目	学部共通科目32
9647001	ロシア語(中級)	語学	1-4	2	前期	水2	田中　大	学部共通科目	学部共通科目33
9673001	スペイン語(初級)I	語学	2-4	2	前期	火4	小西　咲子	学部共通科目	学部共通科目34
9674001	スペイン語(初級)II	語学	2-4	2	後期	火4	小西　咲子	学部共通科目	学部共通科目35
9668001	スペイン語(中級I)	語学	2-4	2	前期	火5	小西　咲子	学部共通科目	学部共通科目36
9669001	スペイン語(中級II)	語学	2-4	2	後期	火5	小西　咲子	学部共通科目	学部共通科目37
9675001	イタリア語(初級4時間コース)I	語学	2-4	4	前期	月2,木3	菅野　類	学部共通科目	学部共通科目38
9676001	イタリア語(初級4時間コース)II	語学	2-4	4	後期	月2,木3	菅野　類	学部共通科目	学部共通科目39
9663001	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	前期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	学部共通科目40
9663002	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	後期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	学部共通科目41
9604001	アラブ語(初級)	語学	2-4	4	通年	木3	西尾　哲夫	学部共通科目	学部共通科目42
9608001	イラン語(初級)	語学	3-4	4	通年	金2	杉山　雅樹	学部共通科目	学部共通科目43
9620001	シュメール語(初級)	語学	3-4	4	通年	金1	森　若葉	学部共通科目	学部共通科目44
9624001	スワヒリ語(初級)	語学	2-4	2	前期	火3	井戸根　綾子	学部共通科目	学部共通科目45
9625001	スワヒリ語(中級)	語学	2-4	2	後期	火3	井戸根　綾子	学部共通科目	学部共通科目46
9648001	朝鮮語(初級A)	語学	2-4	2	前期	金1	杉山　豊	学部共通科目	学部共通科目47
9649001	朝鮮語(初級B)	語学	2-4	2	後期	金1	杉山　豊	学部共通科目	学部共通科目48
9650001	朝鮮語(中級A)	語学	2-4	2	前期	火2	朴　真完	学部共通科目	学部共通科目49
9651001	朝鮮語(中級B)	語学	2-4	2	後期	火2	朴　真完	学部共通科目	学部共通科目50
9635001	フランス語(中級)	語学	2-4	2	前期	水4	Justine LE FLOC'H		学部共通科目51
9635002	フランス語(中級)	語学	2-4	2	後期	水4	Justine LE FLOC'H		学部共通科目52
9636001	フランス語(上級)	語学	3-4	2	前期	水2	Justine LE FLOC'H		学部共通科目53
9636002	フランス語(上級)	語学	3-4	2	後期	水2	Justine LE FLOC'H		学部共通科目54
8005001	博物館学I	講義	2-4	2	前期	火1	松岡　久美子	学芸員用	学部共通科目55
8006001	博物館学II	講義	2-4	2	後期	火1	松岡　久美子	学芸員用	学部共通科目56
8007001	博物館学III	講義	2-4	2	後期	水2	宮川　禎一	学芸員用	学部共通科目57
8107001	書道	演習	2-4	2	前期	火5	万殿　伸昭	教職用	学部共通科目58
8107002	書道	演習	2-4	2	後期	火5	万殿　伸昭	教職用	学部共通科目59
8041001	英語論文作成法	演習	2-4	2	前期	火4	大﨑　紀子		学部共通科目60
8041002	英語論文作成法	演習	2-4	2	後期	火4	大﨑　紀子		学部共通科目61
9702001	人文学の多面的展開	演習	1-4	2	後期	不定	大西,白木,長岡,小林,TATARCZUK,藤貫,三上,田多井	大学コンソーシアム京都による「プラザ推奨科目」を兼ねる	学部共通科目62
9610001	インドネシア語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木5	柏村　彰夫		学部共通科目63
9611001	インドネシア語II(初級)	語学	1-4	2	後期	木5	柏村　彰夫		学部共通科目64
9626001	タイ語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木5	弓庭　育子		学部共通科目65
9627001	タイ語II(初級)	語学	1-4	2	後期	木5	弓庭　育子		学部共通科目66
9631001	ビルマ(ミャンマー)語I(初級)	語学	1-4	2	前期	木3	本行　沙織		学部共通科目67

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
9637001	ベトナム語I(初級)	語学	1-4	2	前期	水2	吉本 康子		学部共通科目68
9638001	ベトナム語II(初級)	語学	1-4	2	後期	水2	吉本 康子		学部共通科目69
9822001	タイ研修	特殊講義	1-4	2	前期	集中	張 子康		学部共通科目70
9822002	ベトナム研修	特殊講義	1-4	2	後期	集中	張 子康		学部共通科目71
9822005	インドネシア研修	特殊講義	1-4	2	後期	集中	張 子康		学部共通科目72
9822003	戦争と植民地の歴史認識	特殊講義	1-4	2	後期	木2	小山 哲,谷川 穣		学部共通科目73
JK31001	Introduction-Focus I Seminar (KBR) A	演習	3-4	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		学部共通科目74
JK32001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) A	演習	3-4	2	前期	金2	安里 和晃		学部共通科目75
JK33001	Introduction-Focus I Seminar (VMC) A	演習	3-4	2	前期	水3	KAMM, Bjorn-Ole		学部共通科目76
JK35001	Introduction-Focus I Seminar (SEG) B	特殊講義	3-4	2	前期	水6	ERICSON, Kjell David		学部共通科目77
JK07001	Skills for Transcultural Studies I-English	演習	3-4	2	前期	水2	ERICSON, Kjell David		学部共通科目78
JK10003	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	2-4	2	前期	木2	KNAUDT, Till		学部共通科目79
JK10004	Foundations I-Seminar (SEG)	特殊講義	3-4	2	前期	木4	張 子康		学部共通科目80
JK11001	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2-4	2	前期	火2	ROTH, Martin Erwin		学部共通科目81
JK11003	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	3-4	2	前期	月2	KITSNIK, Lauri		学部共通科目82
JK11004	Foundations I-Seminar (VMC)	特殊講義	2-4	2	前期	集中	森下 達		学部共通科目83
JK15001	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	月5	海田 大輔		学部共通科目84
JK15002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	金4	川島 隆		学部共通科目85
JK15004	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木2	CAMPBELL, Michael		学部共通科目86
JK16002	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquium)	演習	3-4	2	後期	火5	南谷 奉良		学部共通科目87
JK17001	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	金2	安里 和晃		学部共通科目88
JK17002	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	2-4	2	後期	木2	KNAUDT, Till		学部共通科目89
JK17005	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木2	佐野 真由子		学部共通科目90
JK17006	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水2	河合 淳子		学部共通科目91
JK17010	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木4	張 子康		学部共通科目92
JK21001	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	火2	村上 衛,ERICSON, Kjell David		学部共通科目93
JK21002	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	水3	KAMM, Bjorn-Ole		学部共通科目94
JK21003	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木3	ERICSON, Kjell David		学部共通科目95
JK21005	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)	特殊講義	3-4	2	後期	木2	ERICSON, Kjell David		学部共通科目96
JK26001	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium)	演習	3-4	2	後期	水4	KAMM, Bjorn-Ole		学部共通科目97

学部共通科目1

科目ナンバリング	U-LET40 10012 SJ36										
授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　大河内　泰樹 非常勤講師 安井　絢子 非常勤講師 笠木　丈 非常勤講師 林　和雄 非常勤講師 香西　信				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	哲学基礎文化学入門										

[授業の概要・目的]

哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。

この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。

なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。

[到達目標]

哲学基礎文学系に進むための基本的な知識とスキルを習得する。哲学で論じられる幅広いトピックに対応できる柔軟な思考力を養う。

[授業計画と内容]

第1回 ガイダンス（大河内）
第2回 林和雄講師（倫理学）「J.S.ミルの功利主義的自由主義１」
第3回 林和雄講師（倫理学）「J.S.ミルの功利主義的自由主義２」
第4回 林和雄講師（倫理学）「J.S.ミルの功利主義的自由主義３」
第5回 安井絢子講師（倫理学）「ケアの倫理入門①：その出自と基本的な考え方」
第6回 安井絢子講師（倫理学）「ケアの倫理入門②：その特徴と問題点」
第7回 安井絢子講師（倫理学）「ケアの倫理入門③：依存労働としてのケアワークを考える」
第8回 前半の振り返り
第9回 笠木丈講師（宗教学）「アンリ・ベルクソンの自由論１」
第10回 笠木丈講師（宗教学）「アンリ・ベルクソンの自由論２」
第11回 笠木丈講師（宗教学）「アンリ・ベルクソンの自由論３」
第12回 香西信講師（キリスト教学）「使徒教父文書概論」
第13回 香西信講師（キリスト教学）「バルナバの手紙（１）概論」
第14回 香西信講師（キリスト教学）「バルナバの手紙（２）予型論的聖書解釈」
第15回 予備日

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く↓↓↓

哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の８割以上に出席することが、単位認定の条件です。
成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に適宜指示する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目2

科目ナンバリング	U-LET41 10022 SJ36										
授業科目名 <英訳>	東洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科 教授 金光 桂子 非常勤講師 伊藤 令子 非常勤講師 奥田 茉莉子 非常勤講師 黄 詩琦 非常勤講師 古閑 裕規				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	東洋のことばと文化（国語学国文学・中国語学中国文学）										

[授業の概要・目的]

各担当者がリレー形式で、国語学国文学・中国語学中国文学の研究が具体的にどのようなものであるかを紹介する。東洋の文献にはどのようなものがあり、それらをどのような手法を用いて研究するのか、そこからどのようなことがわかるのかを、二次文献の講読なども交えつつ学ぶ。授業の形式は各講師によって異なるが、「文献学」という一貫したテーマが設けられている。すべての授業において、受講生が「文献学とは何か」という問いを設定し、積極的に発言し質問することによって、自分なりの見解を得ることを期待する。

[到達目標]

本科目の履修を通して以下のような知識と能力の習得を目指す。
・国語学国文学・中国語学中国文学の各専修で行われている研究がどのようなものであるのかを理解すること。
・国語学国文学・中国語学中国文学の各分野について興味・関心を持つこと。
・文献学とは何かを自分なりに理解した上で、興味をもった分野について参考文献等を用いて自身の見解を整理し、レポートとしてまとめることができること。

[授業計画と内容]

※初回の講義においてゼミナール全体についてのガイダンスを行う。
第1回　能と古典文学（１）能楽の大成と受容についての概説（奥田・国語学国文学）
第2回　能と古典文学（２）『義経記』と能「船弁慶」（奥田・国語学国文学）
第3回　能と古典文学（３）「長恨歌」と能「楊貴妃」（奥田・国語学国文学）
第4回　江戸川乱歩作品における歌舞伎受容（１）乱歩作品の近世文芸受容研究史（古閑・国語学国文学）
第5回　江戸川乱歩作品における歌舞伎受容（２）『黒蜥蜴』と河竹黙阿弥（古閑・国語学国文学）

第6回　江戸川乱歩作品における歌舞伎受容（３）『黒蜥蜴』と鶴屋南北（古閑・国語学国文学）
第7回　江戸川乱歩作品における歌舞伎受容（４）『魔術師』と鶴屋南北（古閑・国語学国文学）
第8回　中国六朝～唐の物語中の異界（１）当時の異界譚に関する概説（伊藤・中国語学中国文学）

第9回　中国六朝～唐の物語中の異界（２）『桃花源記』とその舞台（伊藤・中国語学中国文学）
第10回　中国六朝～唐の物語中の異界（３）『酉陽雑俎』に登場する異界（伊藤・中国語学中国文学）
第11回　周作人の漢詩創作（１）周作人とその時代（黄・中国語学中国文学）
第12回　周作人の漢詩創作（２）周作人の漢詩及び新詩詩論（黄・中国語学中国文学）

東洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く↓↓↓

東洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

第13回　周作人の漢詩創作（３）『苦茶庵打油詩』（黄・中国語学中国文学）
第14回　周作人の漢詩創作（４）『老虎橋雑詩』（黄・中国語学中国文学）
第15回　総括
※フィードバック方法については各講師が授業の中で説明します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（20%）と学期末のレポート（80%、課題選択制）。

[教科書]

配布資料による。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業後に受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目3

科目ナンバリング	U-LET41 10022 SJ36										
授業科目名 <英訳>	東洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　金光　桂子 非常勤講師 髙橋　健二 非常勤講師 畑田　昌広 非常勤講師 陸　穎瑤 非常勤講師 渡邉　樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	東洋の文学と思想（国語学国文学・中国語学中国文学・インド古典学）										

[授業の概要・目的]

各担当者がリレー形式で、国語学国文学・中国語学中国文学・インド古典学の研究が具体的にどのようなものであるかを紹介する。東洋の文献にはどのようなものがあり、それらをどのような手法を用いて研究するのか、そこからどのようなことがわかるのかを、二次文献の講読なども交えつつ学ぶ。授業の形式は各講師によって異なるが、「文献学」という一貫したテーマが設けられている。すべての授業において、受講生が「文献学とは何か」という問いを設定し、積極的に発言し質問することによって、自分なりの見解を得ることを期待する。

[到達目標]

本科目の履修を通して以下のような知識と能力の習得を目指す。
・国語学国文学・中国語学中国文学・インド古典学の各専修で行われている研究がどのようなものであるのかを理解すること。
・国語学国文学・中国語学中国文学・インド古典学の各分野について興味・関心を持つこと。
・文献学とは何かを自分なりに理解した上で、興味をもった分野について参考文献等を用いて自身の見解を整理し、レポートとしてまとめることができること。

[授業計画と内容]

※初回の講義においてゼミナール全体についてのガイダンスを行う。
第1回　万葉集の歌とその受容（１）文献学的にみた万葉集（畑田・国語学国文学）
第2回　万葉集の歌とその受容（２）万葉集の用字法（畑田・国語学国文学）
第3回　万葉集の歌とその受容（３）万葉集にみられる漢籍の影響（畑田・国語学国文学）
第4回　七―十世紀の日中文化交流（１）両国を往来する人々（陸・中国語学中国文学）
第5回　七―十世紀の日中文化交流（２）唐人詩文の舶来と日本人の享受（陸・中国語学中国文学）

第6回　七―十世紀の日中文化交流（３）進士科・文章生試と試験用文体「律賦」の伝来（陸・中国語学中国文学）
第7回　七―十世紀の日中文化交流（４）「唐物」の流伝と日本での発展（陸・中国語学中国文学）

第8回　和漢聯句を読む（１）概説（渡邉・国語学国文学）
第9回　和漢聯句を読む（２）講読（一）（渡邉・国語学国文学）
第10回　和漢聯句を読む（３）講読（二）（渡邉・国語学国文学）
第11回　和漢聯句を読む（４）講読（三）（渡邉・国語学国文学）
第12回　古代南アジアの死生観（１）祭式学的死生観と輪廻転生（髙橋：インド古典学）
第13回　万葉集の歌とその受容（４）中世における万葉集の受容（畑田・国語学国文学）
第14回　古代南アジアの死生観（２）祭式学的死生観と輪廻転生（髙橋：インド古典学）
第15回　総括

東洋文化学系(ゼミナールII) (2)へ続く↓↓↓

東洋文化学系(ゼミナールII) (2)

※フィードバック方法については各講師が授業の中で説明します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（20%）と学期末のレポート（80%、課題選択制）。

[教科書]

配布資料による。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業後に受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目4

科目ナンバリング	U-LET42 10032 SJ36											
授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)						担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　小林　久美子 非常勤講師 山下　裕大 非常勤講師 中村　満耶 非常勤講師 久保田　麻里 非常勤講師 霜田　洋祐 同志社大学　嘱託講師 山下　大吾 非常勤講師 網谷　優司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語	
題目	西洋文学へのいざない											

[授業の概要・目的]

本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている１・２回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、フランス文学、イタリア文学、ドイツ文学の作家や作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のさまざまなテーマや方法を学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。

[到達目標]

西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。

[授業計画と内容]

取り上げる担当者とテーマは次の通り。
一つのテーマについて2〜3コマの授業時間をあてる。
第1・2・3週　中村満耶（西洋古典）　「ギリシア・ラテン抒情詩を読む」
第4・5週　久保田麻里（仏文）　「フランス古典演劇とコメディ＝バレエ」
第6・7週　山下裕大（仏文）「恋愛劇と嘘の効用#8212マリヴォー『偽りの打ち明け話』」
第8・9週　霜田洋祐（伊文）　「疫病と文学――マンゾーニ『婚約者』を読む」
第10・11週　山下大吾（露文）　「プーシキンの『エヴゲーニイ・オネーギン』を読む」
第12・13・14週　網谷優司（独文）「フロイトのメランコリー論から見る文学と文化」
第15週　総括（小林）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点：１回の授業につき５点満点で評価
期末レポート：４０点満点で評価

[教科書]

プリント配布。

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く↓↓↓

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。
コーディネーター：小林久美子

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET42 10032 SJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　小林　久美子 非常勤講師 青山　忠申 非常勤講師 宮坂　真依子 非常勤講師 土谷　真理子 非常勤講師 庄子　萌 非常勤講師 山下　大輔 非常勤講師 柴田　秀樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	西洋文学の諸相										

[授業の概要・目的]

本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者７名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている１・２回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ロシア文学、ドイツ文学、イギリス文学、フランス文学のさまざまなジャンルの作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のテーマや方法への理解を深めることを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。

[到達目標]

西洋文学の代表的な作家・作品について学び、西洋文学の世界の多面的な魅力を理解する。合わせて、文学研究の方法への案内とする。

[授業計画と内容]

取り上げるテーマと担当者は次の通り。
一つのテーマについて2～4回の授業時間をあてる。

9月4日（月）　1・2限　宮坂真依子（西洋古典）「ウェルギリウス『アエネーイス』を読む」
　　3・4限　山下大輔（独文）　「フランツ・カフカの動物物語を読む」

9月5日（火）　1・2・3・4限　青山忠申（露文）　「中世ロシア文学に触れる」

9月6日（水）　1・2限　柴田秀樹（仏文）　「近現代フランス文学と哲学との交錯――ミシェル・フーコーを通して」
　　3・4限　土谷真理子（独文）「18世紀のドイツ語詩を読む」

9月7日（木）　1・2限　庄子萌（英文）「英国における現代演劇・パフォーマンスの実践」
　　3限　総括（小林）

西洋文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く↓↓↓

西洋文化学系(ゼミナールII)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点：１回の授業につき５点満点で評価
期末レポート：４０点満点で評価

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。
コーディネーター：小林久美子

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目6

科目ナンバリング	U-LET43 10042 SJ36										
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科 教授 吉川 真司 非常勤講師 高木 康裕 非常勤講師 高野 紗奈江 非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 村上 孟謙 非常勤講師 佐藤 早紀子 非常勤講師 田口 佳奈 非常勤講師 勅使河原 拓也 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 岩永 紘和 非常勤講師 山下 耕平				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木1	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線（1）										

[授業の概要・目的]

歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、考古学・日本史学（前近代）の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。

[到達目標]

新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。

[授業計画と内容]

ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目（予定）は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。

①髙木康裕「考古資料からみた旧人・新人の行動的現代性」
②髙木康裕「アフリカ中期・後期石器時代の石器とビーズ」
③高野紗奈江「'縄文'にみる日本列島の先史文化」
④高野紗奈江「'縄文'にみる西日本縄文時代後期」
⑤加藤麻子「日本における律令法導入の意義」
⑥村上孟謙「律令国家の寺院政策」
⑦村上孟謙「律令国家と山林寺院」
⑧佐藤早紀子「平安時代の貴族装束について」
⑨田口佳奈「平安時代の思想文化」
⑩勅使河原拓也「鎌倉幕府の権力と発給文書」
⑪伊藤啓介「渡来銭と中世貨幣経済」
⑫伊藤啓介「気候変動と中世社会」
⑬岩永紘和「戦国時代と宗教」
⑭山下耕平「近世前期日本における「儒者」の登場と定着」
⑮吉川真司：フィードバック

＊コーディネーター：吉川真司

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く↓↓↓

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート(40%）と、学期末のレポート（60%）にもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、講師・テーマがかわるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。
前期は考古学・日本史学（前近代）、後期は東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・日本史学（近代）と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講することが望ましい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET43 10042 SJ36										
授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　吉川　真司 非常勤講師 斎藤　賢 非常勤講師 松島　隆真 非常勤講師 小野木　聡 非常勤講師 中村　慎之介 非常勤講師 辻田　明子 非常勤講師 田中　悠子 非常勤講師 法貴　遊 非常勤講師 酒嶋　恭平 非常勤講師 藤田　風花 非常勤講師 中辻　柚珠 非常勤講師 平良　聡弘 非常勤講師 林　和樹					
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木1	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	歴史学研究の最前線（2）										

[授業の概要・目的]

歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・日本史学（近代）の新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。

[到達目標]

新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得る。

[授業計画と内容]

ゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。講義担当者と講義題目は以下のとおり。日程については初回の授業で発表する。

①斎藤　賢「中国戦国史研究と『史記』」
②斎藤　賢「『史記』の描く戦国史像　―戦国中期を中心に―」
③松島隆真「漢王朝の創設者たち　―高祖劉邦と功臣たち―」
④小野木聡「唐代監察制度の展開」
⑤中村慎之介「6世紀から12世紀の焼身供養」
⑥辻田明子「メソポタミアの農業の神々への崇拝について」
⑦田中悠子「イスラーム初期における異端」
⑧法貴　遊「中世イスラーム圏のユダヤ人」
⑨酒嶋恭平「古代ギリシア世界におけるペルシア戦争の記憶」
⑩酒嶋恭平「ヘレニズム時代における地方誌の発展と普遍史叙述」
⑪藤田風花「十字軍国家キプロス王国における宗派併存体制の成立過程」
⑫中辻柚珠「ハプスブルク帝国の解体と後継諸国の誕生　―チェコスロヴァキアを中心に―」
⑬平良聡弘「対日使節派遣運動の展開と日本開国　―ペリー来航の再検討―」
⑭林　和樹「産業革命期の日本鉄道史」
⑮吉川真司：フィードバック

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く↓↓↓

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

＊コーディネーター：吉川真司

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（40%）と、学期末のレポート（60%）にもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、講師・テーマがかわるので、各講義で学んだ内容をそのたびに整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。
前期は考古学・日本史（前近代）、後期は東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・日本史学（近代）と分かれているが、歴史学を様々な視点からみてほしいので、できれば志望する専修如何にかかわらず、前後期ともに受講することが望ましい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目8

科目ナンバリング	U-LET44 10052 SJ36										
授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　太郎丸　博 非常勤講師 山岡　翔 非常勤講師 古本　真 非常勤講師 翁　和美 非常勤講師 徐 堯 非常勤講師 堂本　直貴 非常勤講師 山下　泰幸 非常勤講師 鄭　雅云 非常勤講師 田多井　俊喜				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	行動文化学への招待										

[授業の概要・目的]

行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが，この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し，あわせて研究の始め方や，基本となる入門書，当初に遭遇する困難など，学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに，学生の相談にも応えます.

[到達目標]

行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し，人間が日常使う言語や，心の動き，社会の中での行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます.

[授業計画と内容]

下記のテーマについて扱う予定です．変更や追加もあり得ますので，その場合はKULASIS上でお知らせします.

1ガイダンス
2音声と音韻（山岡　翔）
3ベトナム語の音声・音韻研究の諸問題（　〃　）
4野外言語調査のススメ（古本　真）
5認知症の医療の場の社会学〔1〕医療の場に接ぎ木された「日常生活世界」（翁　和美）
6認知症の医療の場の社会学〔2〕「日常生活世界」を社会学する（　〃　）
7福祉国家論の展開（徐　堯）
8結婚・家族の社会学（　〃　）
9なぜ歴史的事象を社会学の研究対象にするのか －歴史社会学の理論－（堂本　直貴）
10「公園と近代」の歴史社会学 －歴史社会学の事例研究－（　〃　）
11現代フランスのイスラーム嫌悪（山下　泰幸）
12言語と言語が接触するとき（鄭　雅云）
13性的マイノリティとアイデンティティ（田多井　俊喜）
14性的マイノリティとビジネス倫理（　〃　）
15フィードバック

行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く↓↓↓

行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価です．毎回小テストを実施し，前期を通じての平均点で評価します．小テストを受けない回は０点として計算されます．

[教科書]

教材は必要に応じて PandA 等で配布します．

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します．

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けませんが，授業の後で担当の講師と話し合ってください．また各講師ごとに授業に関するアンケートをします．

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目9

科目ナンバリング	U-LET44 10052 SJ36										
授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　太郎丸　博 非常勤講師 別役　透 非常勤講師 大谷　青渚 非常勤講師 桑林　賢治 非常勤講師 吉　シン佳 非常勤講師 上﨑　麻衣子 非常勤講師 神品　芳孝 非常勤講師 LADMIRAL, Guillaume 非常勤講師 戸梶　民夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	行動文化学への招待										

[授業の概要・目的]

行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが，この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し，あわせて研究の始め方や，基本となる入門書，当初に遭遇する困難など，学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに，学生の相談にも応えます.

[到達目標]

行動文化学に関する最新の知見と方法論を習得し，人間が日常使う言語や，心の動き，社会の中での行動とそれを取り巻く地域そのものについて包括的に理解する力をつけます.

[授業計画と内容]

下記のテーマについて扱う予定です．変更や追加もあり得ますが，KULASIS上でお知らせします.

1ガイダンス
2動物は思い出を語るか：心的時間旅行の比較認知科学（別役　透）
3品詞分類の基準―英語・日本語とパイワン語の対照―（大谷　青渚）
4場所の記憶の地理学①（桑林　賢治）
5場所の記憶の地理学②（　〃　）
6ウェーバー受容と東アジア社会の近代化――社会学史の社会学①（吉　深佳）
7ウェーバー受容と東アジア社会の近代化――社会学史の社会学②（　〃　）
8運動視知覚と脳（上﨑　麻衣子）
9自己運動知覚の神経基盤（　〃　）
10厳しい気候環境の下で暮らす① 高山地域で暮らす（神品　芳孝）
11厳しい気候環境の下で暮らす② 強風地域で暮らす（　〃　）
12ネットワーク分析入門（Guillaume Ladmiral）
13 1990年代以降の日本における性的マイノリティの性的政治の興隆と新自由主義（戸梶　民夫）
14 2010年代の日本における性的マイノリティの政治展開と現在的課題（　〃　）
15フィードバック

行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く↓↓↓

行動・環境文化学系(ゼミナールII)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価です．毎回小テストを実施し，後期を通じての平均点で評価します．小テストを受けない回は０点として計算されます．

[教科書]

教材は必要に応じて PandA 等で配布します．

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します．

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けませんが，授業の後で担当の講師と話し合ってください．また各講師ごとに授業に関するアンケートをします．

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET45 10062 SJ36										
授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科 准教授 松永 伸司 文学研究科 教授 喜多 千草 非常勤講師 白木 正俊 非常勤講師 鈴木 真奈 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 平岡 久代 非常勤講師 福田 耕佑				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
題目	現代文化学への招待Ⅰ										

[授業の概要・目的]

現代文化学専攻の博士後期課程を修了した若手研究者が、自分たちの最新の研究成果をふまえつつ、基礎現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。この科目は2つの性格をもっています。

ひとつ目は、現代文化学に関心をもつ1・2回生のための導入的な専門科目という性格です。多様な基礎現代文化学系の研究内容の一端を示すことで、基礎現代文化学系への理解を深めてもらい、1回生には、系分属選択の判断材料を、2回生には、専修選択の判断材料を提供することがその目的です。

ふたつ目は、大学教員をめざす若手研究者のための教育実践の場であるということです。現代文化学専攻で学び、将来大学教員を志す研究者が、実際に学生に教えることを通して教育力を伸ばすことが目的となります。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。

[到達目標]

この科目は、基礎現代文化学系に関心をもっている学生に、多様性に富む基礎現代文化学系の学問内容の一端を提示することを目的としています。リレー講義を担当する若手の研究者は、最先端に近いところで研究をしています。そういった研究の新動向を知ることで、受講生が基礎現代文化学系に関心をもつようになり、専修分属を決める際の判断材料の材料となることが期待されます。

[授業計画と内容]

初回の授業で簡単なガイダンスを行ったあと、下記のスケジュール・内容で5名の講師が各3回の授業を行います。

第1～3回 日本のパーソナルコンピュータ史
（担当：鈴木真奈）
① 1970年以前の日本のコンピュータの歴史
② マイコンブーム：1970年代後半からのマイコン・パソコンの歴史
③ 日本語とコンピュータ：日本語ワードプロセッサ専用機を中心に

第4～6回 近現代ギリシア意識の形成と文学の関係：ナショナリズムと言文一致運動
（担当：福田耕佑）
① 導入：ギリシア・ナショナリズムの背景：「メガリ・イデア」と言語問題

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く↓↓↓

② 19世紀のギリシア文学とギリシア人意識の形成について：新アテネ派（80年世代）を中心に
③ 20世紀におけるギリシア文学のヨーロッパ化とギリシアの「脱亜入欧」

第7～9回 日本文化の形成史：特有文化の作られ方
（担当：マルチン・タタルチュック）
① 明治時代の京都と国風文化
② 20世紀における国風文化・物語・観光
③ 現代京都と新たな文化の試み

第10～11回 日本近代都市における人と水の関係史：京都市を事例に
（担当：白木正俊）
① 近代社会における人と水の関係史
② 都市における利水事業・治水事業の展開

第12～14回 文化財移動と国際関係
（担当：平岡久代）
① フェノロサと明治政府それぞれの欲望
② 文化財のある場所
③ 文化財移動と広報文化外交

第15回　フィードバック

※一部スケジュールが変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

[履修要件]

授業は主として1・2回生を受講者に想定して行いますが、3・4回生の受講も可。

[成績評価の方法・観点]

授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートを提出していただきます。

【配点】
平常点50%
試験（レポート）50%

【平常点の評価基準】
毎回授業終了時に書いていただくリフレクションシートの提出実績によって評価します。

【試験（レポート）の評価基準】
各講師の最後の授業で出されるレポート課題の提出実績および内容のクオリティによって評価します。分量は各400～800字程度になる予定です。

[教科書]

使用しない

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)へ続く↓↓↓

基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ)(3)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に各担当者から課題が提示されることがあります。その指示にしたがってください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目11

科目ナンバリング	U-LET49 39639 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（初級）(語学) Hebrew					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 手島　勲矢				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（初級）										

[授業の概要・目的]

ヘブライ語の文字、母音記号などの聖書テキストの伝統、またラビ文学を含む歴史的な言語文化の変化を概要するとともに、文法の基礎（名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。その際、16－17世紀の文法学者の意見も紹介する。

[到達目標]

ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。

[授業計画と内容]

１．ヘブライ語の歴史（概観）、２．文字と母音記号、３.音節と区切り、４．形容詞と名詞（単数と複数）、５．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、６．存在詞と非存在詞、７．現在分詞と名詞、８．語根とビニヤン（導入）、９．カルとニフアル、１０．ピエルとプアル、１１．ヒフィルとフファル、１２．ヒトパエルとニフアル、１３．人称代名詞と接尾辞、１４．一般と唯一、１５．まとめ

＊１課題あたり１～２回を当てる場合もある。
＊＊内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。
＊＊＊確認クイズは２～３回、学習の区切りで行う。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・宿題（２０％）、クイズ（３０％）、小テスト（５０％）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

ヘブライ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヘブライ語（初級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目12

科目ナンバリング	U-LET49 39640 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 手島　勲矢				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（中級）										

[授業の概要・目的]

動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステムと、その文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意するべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解については、16－17世紀の文法学者の意見にも注目する。

[到達目標]

動詞／完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含む現代ヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いること。母音記号なしのテキストも多少読めること。

[授業計画と内容]

１．名詞文と動詞の確認、２．名詞と動詞パラダイムの諸問題、３．完了形（基本）、４．未完了形（基本）、５．不定詞と命令形、６．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、７．レヴィータ文法（時制と時間）、８．語根／ギズラー、９．W倒置と北西セム語、１０．読解聖書、１１．読解ラビ文献、１２．読解中世文献、１３．読解近代文献、１４．読解現代文、１５．まとめ

＊１課題あたり１～２回の授業を要する場合もある。
＊＊進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。
＊＊＊学習の区切りで、2～3回の確認クイズをする。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・宿題（２０％）、クイズ（３０％）、注解レポート（５０％）

ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19616 LJ48										
授業科目名 <英訳>	サンスクリット（２時間コース）(語学) Sanskrit(2H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 山口　周子				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級文法（２時間コース）										

[授業の概要・目的]

サンスクリット語は南アジア（インド）において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教（仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等）や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。

[到達目標]

このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。

[授業計画と内容]

以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。

前期
サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回)
名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回)
代名詞、数詞、複合語(第14-15回)

後期
動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回)
未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回)
年度末テスト（テスト期間）
フィードバック期間：フィードバック（第30回）

※ 授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。

サンスクリット（２時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

サンスクリット（２時間コース）(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

・平常点(練習問題への理解度（授業期間中に「確認テスト」を実施）、40点)
・年度末筆記試験(60点)

[教科書]

吹田隆道（編著）『実習サンスクリット文法：萩原雲来『実習梵語学』新訂版』（春秋社, 2015）ISBN:978-4393101728

[参考書等]

（参考書）
辻　直四郎 『サンスクリット文法』（岩波書店, 1974）ISBN:978-4000202220

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の進捗状況に合わせて、原則として次の２つのいずれかを授業中に指示します。
・宿題として出された練習問題の解答（訳）を準備してくること。
・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと（特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す）。

※ 授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目14

科目ナンバリング	U-LET49 19617 LJ48										
授業科目名 <英訳>	サンスクリット（４時間コース）(語学) Sanskrit(4H)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 Tao PAN				
配当学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月5,木5	授業形態	語学	使用言語	英語
題目	Sanskrit Grammar										

[授業の概要・目的]

This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.

[到達目標]

(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)
(2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit
(3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit
(4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit
(5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit

[授業計画と内容]

The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry’s Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.
First semester
Week #01 Introduction to Sanskrit language
Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.
Week #15: Feedback

Second semester
Week #01 Review course content of lessons 1 to 22
Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.
Week #15: Feedback

[履修要件]

Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.

サンスクリット（4時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

サンスクリット（４時間コース）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

[教科書]

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』（Orient Book Distributors, 1986）ISBN:978-8120802070（both English and Japanese version will be used）
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』（Cambridge University Press, 2017）ISBN:978-1107459069（https://www.cambridge-sanskrit.org）
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erlauterungen』（de Gruyter, 1978）ISBN:978-3110071771
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php(Sanskrit-English Dictionary)
https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php (English-Sanskrit Dictionary)
https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1(Rigveda explained)
http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/(Dictionaries of Indian languages)
http://www.indoskript.org/letters(Scripts)

[授業外学修（予習・復習）等]

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19633 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（初級）(語学) Hindi					担当者所属・職名・氏名	白眉センター 特定助教 虫賀　幹華				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4,5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語（初級）										

[授業の概要・目的]

インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。
講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。

[到達目標]

1. ヒンディー語の初等文法を習得する。
2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。
3. 簡単なヒンディー会話ができるようになる。
4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。

[授業計画と内容]

全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。
教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー会話に挑戦してもらう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ボリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。

※注意※
前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜４・５限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。

前期
1. イントロダクション、文字

ヒンディー語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

2~3. 文字と発音
4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める
＜前期・期末試験＞
15. フィードバック

後期
1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める
11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習
＜後期・期末試験＞
15. フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（40%）と2回の筆記試験（30%ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

[教科書]

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス　ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

[参考書等]

（参考書）
古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語＝日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0（履修前に辞書を購入する必要はない。）
町田和彦 『ニューエクスプレス　ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8
Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目16

科目ナンバリング	U-LET49 29659 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（中級）I Hindi					担当者所属・職名・氏名	大阪大学言語文化研究科　講師 西岡　美樹				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語中級 I										

[授業の概要・目的]

本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。

[到達目標]

1. 複雑な文章を精読できるようになる。
2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。
3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。
4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。

[授業計画と内容]

本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。

第 1～ 5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか
第 6～10週目：インド神話関連の物語
第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）

なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。
また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。

[履修要件]

・語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。
・ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課－第15課の文法項目）習得していること。
・毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（40%）
期末試験あるいはレポート（60%）

ヒンディー語（中級）I(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（中級）I(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsqE37tZIkuvqVPTa7g(Hindi Fairy Tales)
https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ(Hindi Aacharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw(Akbar Birbal Stories)
https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)
https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg(Gyan Manthan)
http://www.jansatta.com/(Jansatta（インドのヒンディー語新聞）)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times（インドのヒンディー語新聞）)
https://www.youtube.com/user/abpnewstv(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)
http://khabar.ndtv.com/(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）)
https://www.youtube.com/user/aajtaktv(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)
https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw(Doordarshan National)
https://publication.aa-ken.jp(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説　初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)
https://flipgrid.com/(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)
https://www.bookwidgets.com/(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

[授業外学修（予習・復習）等]

・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目17

科目ナンバリング	U-LET49 29660 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（中級）II Hindi					担当者所属・職名・氏名	大阪大学言語文化研究科　講師 西岡　美樹				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語中級 II										

[授業の概要・目的]

本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。

[到達目標]

1. 複雑な文章を精読できるようになる。
2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。
3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。
4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。

[授業計画と内容]

本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。

第 1～ 5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌
第 6～10週目：新聞記事、TVニュース
第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマーヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど)

なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。
また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。

[履修要件]

・語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。
・ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課－第15課の文法項目）習得していること。
・毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（40%）
期末試験あるいはレポート（60%）

ヒンディー語（中級）II(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（中級）II(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ(Hindi Aacharya)
https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw(Indian Stories For Kids)
https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzlO0B-ltIZoCg(Gyan Manthan)
https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtwcyHcFJyyMfw(Doordarshan National)
https://www.youtube.com/user/abpnewstv(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)
http://khabar.ndtv.com/(NDTV （インドのニュース・報道専門番組）)
https://www.youtube.com/user/aajtaktv(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)
http://www.jansatta.com/(Jansatta （インドのヒンディー語新聞）)
http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times （インドのヒンディー語新聞）)
https://publication.aa-ken.jp(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説　初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)
https://flipgrid.com/(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)
https://www.bookwidgets.com/(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

[授業外学修（予習・復習）等]

・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

（その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29628 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　宮崎　泉				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語初級										

[授業の概要・目的]

この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。

チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。

1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。

[到達目標]

前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。

[授業計画と内容]

授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。

1. イントロダクション（1週）
2. 文字と発音（4週）
3. 名詞（4週）
4. 形容詞（1週）
5. 助動詞（3週）
6. まとめ（1週）
7. フィードバック（1週）

「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。

受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。

チベット語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

成績は、平常点（100%）によって評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29629 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（初級)(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　宮崎　泉				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語初級										

[授業の概要・目的]

この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。

チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。

1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。

[到達目標]

後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。

[授業計画と内容]

前期のチベット語（初級）に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。

1. 動詞（5週）
2. 複文他（5週）
3. チベット語テキスト演習（4週）
4. フィードバック（1週）

基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。

[履修要件]

前期のチベット語（初級）を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

成績は、平常点（100%）によって評価する。

チベット語（初級)(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（初級)(語学)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目20

科目ナンバリング	U-LET49 39630 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	愛知県立大学　外国語学部　教授 高橋　慶治				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）										

[授業の概要・目的]

この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。

[到達目標]

チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。

[授業計画と内容]

この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。

前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。

第1回 イントロダクション
第2〜14回 チベット語テキストの輪読
第15回 フィードバック

[履修要件]

チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。

[教科書]

テキストは、プリントとして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

チベット語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 39630 LJ48										
授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）(語学) Tibetan					担当者所属・職名・氏名	愛知県立大学　外国語学部　教授 高橋　慶治				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	チベット語（中級）										

[授業の概要・目的]

この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。

[到達目標]

チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。

[授業計画と内容]

この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。

後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。

第1回 イントロダクション
第2～14回 チベット語テキストの輪読
第15回 フィードバック

[履修要件]

チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。

[教科書]

テキストは、プリントとして配布する。

チベット語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目22

科目ナンバリング	U-LET49 29664 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級I）（語学） Greek					担当者所属・職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学部 准教授 西村　洋平				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ										

[授業の概要・目的]

古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。

哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門とはしない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。

[到達目標]

古典ギリシア語の基礎文法を理解する。
簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。
古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション、ギリシア文字の読み方・書き方
第2回から第14回　古典ギリシア語初歩の解説
教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。
期末試験
第15回　フィードバック（試験の解説、前期の復習）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。

[教科書]

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29665 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（初級II）（語学） Greek					担当者所属・職名・氏名	兵庫県立大学環境人間学部 准教授 西村　洋平				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	古典ギリシア語を学ぶ										

[授業の概要・目的]

古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。

哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門とはしない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。

[到達目標]

古典ギリシア語の基礎文法を理解する。
簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。
古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
第2回から第15回　古典ギリシア語初歩の解説

教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。

[履修要件]

前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。
詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。

[成績評価の方法・観点]

練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。

[教科書]

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）

ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く↓↓↓

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習してくること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29615 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ギリシア語（４時間コース）(語学) Greek(4H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 広川　直幸				
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月1,木1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ギリシア語（４時間コース）										

[授業の概要・目的]

ギリシア語（正確にはギリシャ語）はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字Ｂ文書を別にすれば、紀元前８世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の内で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前５～４世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的よく実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献（例えばホメーロス）やそれ以後の文献（例えば『新約聖書』）を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテクストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくし、スムーズに原典講読に移行できるようになることを目指す。

[到達目標]

古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むギリシア語原典（紀元前８世紀の叙事詩から紀元後４世紀頃の擬古文まで）の読解に取りかかることができるようになる。

[授業計画と内容]

まずは全３６課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折（いわゆる語形変化）なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。

教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテクストを決定し講読を行う。

前期
第１回　イントロダクション、第１課「文字と発音」の解説
第２回　第１課の練習問題、第２課「アクセント」の解説
第３回　第１課と第２課の復習
第４回　第３課の解説
第５回　第３課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第４課の解説
第６回～第３０回　第５回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。

後期
第３１回～第３８回　前期と同様に教科書の続きを学ぶ。

ギリシア語（４時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ギリシア語（４時間コース）(語学)(2)

第３９回～第６０回　平易なテクストを講読する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（課題遂行状況、疑問点を積極的に質問する受講態度）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。
出席数が全授業数の４分の３に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

[教科書]

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

[参考書等]

（参考書）
夏季休暇の前に後期の講読までに揃えるべき辞書類を記した文献表を配布し詳しく解説する。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。一コマにつき1時間や2時間程度の予習復習では到底受講継続はできないと心得よ。また、他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、授業中であれ授業後であれ遠慮をせずに積極的に質問することを期待する。
授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。
遅刻は３回につき欠席１回とみなす。また、３０分以上の遅刻は欠席とみなす。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29666 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ラテン語（初級I）（語学） Latin					担当者所属・職名・氏名	京都大学文学部　非常勤講師 勝又　泰洋				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法										

[授業の概要・目的]

ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。

[到達目標]

ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらをある程度運用できるようになる。

[授業計画と内容]

下記教科書（全19課・82節（＋付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。

第1回～第14回：教科書第1節～第42節
定期試験
第15回：試験フィードバック

毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。

[履修要件]

後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く↓↓↓

ラテン語（初級I）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29667 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ラテン語（初級II）（語学） Latin					担当者所属・職名・氏名	京都大学文学部　非常勤講師 勝又　泰洋				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ラテン語文法										

[授業の概要・目的]

ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。

[到達目標]

ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらをある程度運用できるようになる。

[授業計画と内容]

下記教科書（全19課・82節（＋付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。

第1回～第14回：教科書第43節～第82節
定期試験
第15回：試験フィードバック

毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。

[履修要件]

前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。

[教科書]

中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く↓↓↓

ラテン語（初級II）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。また、同じく第1回から具体的な学習を進めるので、事前に必ず教科書を用意しておくこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29645 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ラテン語（４時間コース）(語学) Latin(4H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 佐藤　義尚				
配当学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月2,金2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ラテン語（4時間コース）										

[授業の概要・目的]

ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする．一年間，週に二回の授業を行う．
古代ローマから近世にいたるまで哲学，文学は言うに及ばず，法律，自然科学の書物もラテン語で書かれている．ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった．西欧の諸言語，文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう．ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない．

[到達目標]

古代，中世，近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする．
フランス語，イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで，これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする．

[授業計画と内容]

授業は教科書にそってすすむ．各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む．動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する．一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ．
ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので，変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す．
前期は文字，発音，アクセントから始まって，動詞，名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する．後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく．

前期
第１回；ラテン語の仕組み．関連ウェッブサイトの紹介．
第２回～第２９回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ．
第３０回；学習到達度の評価

後期
第１回～第１５回；教科書を二課ずつすすみ，学習し終える．
第１６回～第３０回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む．
後期定期試験．

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点60点，試験40点で評価する．

[教科書]

松平千秋・国原吉之助　『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:4-8096-4301-8
教科書だけではわかりにくいので，解説資料を配布する．

ラテン語（４時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ラテン語（４時間コース）(語学)(2)

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習してくること.

（その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易．逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19661 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級 I										

[授業の概要・目的]

ポーランド語の初級文法を習得する。

[到達目標]

ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。
前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。
期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。

[授業計画と内容]

１．ポーランド語の基礎知識（文字、アクセント、語尾変化、発音など）【１週】
２．基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【１週】
３．基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【１週】
４．ここまでの内容の確認と練習【１週】
５．名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【１週】
６．名詞の単数生格、panとpaniの用法【１週】
７．名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【１週】
８．ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【１週】
９．名詞の単数複数対格、動詞の第１変化（-m,-sz型）【１週】
１０．動詞の第２変化（-e,-isz型）、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【１週】
１１．動詞の第３変化（-e,-esz型）、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【１週】
１２．sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【１週】
１３．前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【１週】
１４．映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる 【１週】
１５．定期試験【１週】
１６．フィードバック【１週】

[履修要件]

特になし

ポーランド語（初級I）(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス＋　ポーランド語』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4
2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス＋（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス　ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス　ポーランド語』を使っても問題ありません。
授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］　『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19662 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級I） Polish (Lectures)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語初級 I										

[授業の概要・目的]

ポーランド語の初級文法を習得する。

[到達目標]

ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。
後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習
します。
期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。

[授業計画と内容]

１．否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【１週】
２．動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【１週】
３．動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【１週】
４．動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【１週】
５．命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【１週】
６．移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【１週】
７．関係代名詞ktoryの用法【１週】
８．ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【１週】
９．仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【１週】
１０．sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【１週】
１１．副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【１週】
１２．非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【１週】
１３．一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【１週】
１４．ポーランドの文化に触れる 【１週】
１５．定期試験【１週】
１６．フィードバック【１週】

[履修要件]

前期のポーランド語（初級I）の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。

ポーランド語（初級I）(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス　ポーランド語＋』（白水社）ISBN:978-4-560-08849-4
2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス＋（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス　ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス　ポーランド語』を使っても問題ありません。
授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］ 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19642 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級II										

[授業の概要・目的]

初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。

[到達目標]

この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。

[授業計画と内容]

受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。
テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。

授業計画：
１．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【１週】
２．テキストI－翻訳と解説【３週間】
３．テキストII－翻訳と解説【３週間】
４．テキストIII－翻訳と解説【３週間】
５．テキストIV－翻訳と解説【３週間】
６．総復習とまとめ【１週】
７．定期試験【１週】
８．フィードバック【１週】

[履修要件]

ポーランド語の文法の基礎知識、１年間以上の学習歴が要求されます。

[成績評価の方法・観点]

基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。
定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。

[教科書]

授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19642 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）(語学) Polish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ポーランド語中級II										

[授業の概要・目的]

初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。

[到達目標]

この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。

[授業計画と内容]

受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。
テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。

授業計画：
１．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【１週】
２．テキストI－翻訳と解説【３週間】
３．テキストII－翻訳と解説【３週間】
４．テキストIII－翻訳と解説【３週間】
５．テキストIV－翻訳と解説【３週間】
６．総復習とまとめ【１週】
７．定期試験【１週】
８．フィードバック【１週】

[履修要件]

ポーランド語の文法の基礎知識、１年間以上の学習歴が要求されます。

[成績評価の方法・観点]

基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。
定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。

[教科書]

授業中に受講生と話し合って決めた資料を用意し配布します。

[参考書等]

（参考書）
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正［編］『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

ポーランド語（中級II）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ポーランド語（中級II）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19646 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ロシア語（初級）(語学) Russian I					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 田中　大				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎 I										

[授業の概要・目的]

ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。

[到達目標]

１）ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。
２）ロシア語の基礎的な文法を習得する。

[授業計画と内容]

授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。
序：文字と発音
第1課　「これはナターシャです」：平叙文
第2課　「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文
第3課　「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞
第4課　「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性
第5課　「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化
第6課　「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形
第7課　「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格
第8課　「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形
第9課　「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格
第10課　「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現
第11課　「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形
第12課　「家にいました」：様々な過去時制
第13課　「今晩はお客が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞
第14課　「カサがありません」：生格の用法

フィードバックについては授業中に指示します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、試験70%で評価します。

[教科書]

プリントを配付します。

ロシア語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ロシア語（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19647 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ロシア語（中級） Russian II					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 田中　大				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ロシア語の基礎Ⅱ										

[授業の概要・目的]

ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。

[到達目標]

１）ロシア語の基礎文法を完成させる。
２）辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。

[授業計画と内容]

授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回）
第15課　「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現
第16課　「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現
第17課　「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化
第18課　「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体
第19課　「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法
第20課　「もし私が鳥だったら」：仮定法

その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回）
・関係詞　・副動詞　・形動詞　・被動相

文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回）

第15回　まとめ

フィードバックについては授業中に指示します。

[履修要件]

ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、試験70%で評価します。

ロシア語（中級）　(2)へ続く↓↓↓

ロシア語（中級） (2)

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）
開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29673 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スペイン語（初級）I Spanish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 小西　咲子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スペイン語（初級I）										

[授業の概要・目的]

スペイン語の発音および基礎文法（直説法過去時制まで）を教科書に沿って学習する。

授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法の過去時制までを一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。

[到達目標]

・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。
・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。
・初級 II（接続法、命令法、初級文法発展） の学習に繋げる。

[授業計画と内容]

教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

各回の主たる学習項目は以下の通りである。

第 1 回：ガイダンス、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入
第 2 回：第0課［アルファベット、発音、音節の分け方］
第 3 回：第1課［名詞の性数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞と動詞ser］
第 4 回：第2課［動詞estar、存在のhay、指示詞、所有形容詞］
第 5 回：第3課［直説法現在：規則動詞と不規則動詞］
第 6 回：復習（1）第1課～第3課の作文および応用問題
第 7 回：第4課［直説法現在：その他の不規則動詞、接続詞］
第 8 回：第5課［目的格人称代名詞、動詞gustar、時刻・日付の表現］
第 9 回：第6課［前置詞、過去分詞、直説法現在完了］
第 10 回：復習（2）第4課～第6課の作文および応用問題
第 11 回：第7課［再帰動詞、不定主語文、現在分詞］
第 12 回：第8課［直説法点過去、天候の表現］
第 13 回：第9課［直説法線過去、時間表現のhacer、直説法過去完了］
第 14 回：復習（3）第7課～第9課の作文および応用問題
≪期末試験≫
第 15 回：フィードバック

スペイン語（初級）I (2)へ続く↓↓↓

スペイン語（初級）I (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点 10%：発音を中心に評価する。
期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

※４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

川口正道 『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087
必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

[参考書等]

（参考書）
辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）
辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）
上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2 （中級まで対応した文法解説書）

[授業外学修（予習・復習）等]

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45sアットマークst.kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29674 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スペイン語（初級）II Spanish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 小西　咲子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スペイン語（初級 II）										

[授業の概要・目的]

前期開講の「スペイン語 初級I 」と同じ教科書を用い、引き続きスペイン語の初級文法を学習する。

授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単な会話文の読解からなる。初級文法のうち接続法、命令文、条件文までを学習する。

[到達目標]

CEFRのＡ１程度のレベルを修得する。

辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。

[授業計画と内容]

教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

各回の主たる学習項目は以下の通りである。

第 1 回：ガイダンス［教科書第0課～9課の振り返り、第10課導入］
第 2 回：第10課［関係詞］
第 3 回：第11課［比較級、最上級］
第 4 回：復習（1) 第10課・第11課の作文および応用問題
第 5 回：第12課［不定語・否定語、受身文］
第 6 回：第13課［直説法の未来・過去未来・未来完了・過去未来完了］
第 7 回：復習（2）第12課・13課の作文および応用問題
第 8 回：第14課［接続法現在：名詞節における用法］
第 9 回：第15課［接続法現在：関係詞節・副詞節における用法、命令文］
第10 回：復習（3）第14課・第15課の作文および応用問題
第11 回：第16課［接続法現在完了、接続法過去、接続法過去完了］
第12 回：第17課［条件文、譲歩文、話法］
第13 回：復習（4）第16課～第17課の作文および応用問題
第14 回：文法発展［平易なテキスト講読または中級文法練習問題］
≪期末試験≫
第15 回：フィードバック

スペイン語（初級）II (2)へ続く↓↓↓

スペイン語（初級）II (2)

[履修要件]

前期開講の「スペイン語 初級I」を学修していること、もしくは同等（教科書第9課まで）の文法知識を有していることが望まれる。

[成績評価の方法・観点]

平常点 10%：発音を中心に評価する。
期末試験 90%：筆記試験により既習の文法事項および基本語彙を理解・習得しているか判定する。

※４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

川口正道　『文法からいくスペイン語』（朝日出版社,2020）ISBN:978-4-255-55113-5 C1087

[参考書等]

（参考書）
辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）
辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）
上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）
上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45sアットマークst.kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29668 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級I）（語学） Spanish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 小西　咲子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スペイン語（中級I）										

[授業の概要・目的]

教科書に沿って基礎文法を復習しながらテキスト読解を通してスペイン語の歴史や現状を学ぶ。同時に練習問題、リスニング、作文、対話練習を通して基礎レベル以上の「語学4技能」の獲得を目指す。

[到達目標]

・CEFRのA2程度のレベルを修得する。
・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事や簡単な文芸作品を読解することができる。
・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。
・自ら口頭でも発信することができる。
・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。
・中級 II（文法発展と作文練習が中心） の学習に繋げる。

[授業計画と内容]

以下のとおり教科書に沿って進める。各回のトピックと確認すべき文法事項は以下の通りである。

第1回　ガイダンス、第1課導入（発音と直説法現在・再帰動詞の確認）
第2回　第1課　Un idioma artificial: el esperanto「エスペラント語」疑問詞，関係詞，接続詞
第3回　第2課　Las primeras grama'ticas del espan'ol「スペイン語史：ネブリハとベリョの文法」直説法現在の規則動詞，目的格人称代名詞
第4回　第3課　El lenguaje de Internet「ネット用語」直説法現在の不規則活用
第5回　第4課　La renovacio'n del vocabulario「リニューアルされる語彙」再帰動詞
第6回　第5課　El espanglish y los anglicismos「スパングリッシュと英語的表現」過去分詞，受身文，直説法現在完了
第7回　第6課　“ Literalmente ”「“ Literalmente ”の意味の変化」直説法点過去
第8回　第7課　Lenguas en peligro de extincio'n「消滅危機言語」直説法線過去，現在分詞
第9回　第8課　El nacimiento de la“ n' ”「“ n' ”の誕生」直説法点過去と線過去の用法
第10回　第9課　El futuro del espan'ol「スペイン語の今とその未来」直説法未来と未来完了
第11回　第10課　Lengua y ge'nero「差別を避けるためのスタイルガイド」命令文I
第12回　第11課　El estudio de las lenguas muertas「死語（ラテン語）」接続法現在I
第13回　第12課　Amenazar en subjuntivo「接続法か直説法か，それが問題だ」接続法現在II
第14回　第13課　Discriminacio'n lingui'stica「言語差別の状況」接続法過去，独立文
≪期末試験≫
第15回　フィードバック

・各課の文法例文の読解より練習問題の解答・解説とテキストのリスニングおよび講読に重点を置く。

スペイン語（中級I）（語学）(2)へ続く↓↓↓

スペイン語（中級I）（語学）(2)

・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
・必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

[履修要件]

スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。

[成績評価の方法・観点]

平常点：20%［発音など口頭パフォーマンスを中心に評価する］
期末試験：80%［リスニングを含む試験を実施し、既習事項を理解・習得しているか判定する］

※４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

中川節子, 岡あゆみ, Juan Jose' Lo'pez 『スペイン語とことば El espan'ol y la aventura de las lenguas』（三修社, 2019）ISBN:978-4-384-42017-3 C1087

[参考書等]

（参考書）
上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2
辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの音声確認や下訳）のうえ授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

※教員メール konishi.sakiko.45sアットマークst.kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29669 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級II）（語学） Spanish					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 小西　咲子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スペイン語（中級II)										

[授業の概要・目的]

教科書に沿って練習問題と作文に取り組みながら既習のスペイン語文法知識の定着と発展を図り、習得した語彙や表現を使って会話をし、またテキスト講読で扱われる話題に関して意見表明やディスカッションも行う。

[到達目標]

・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。
・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説や簡単な文芸作品を読解することができる。
・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。
・既習範囲内の話題と語彙であれば音声面でもスペイン語を理解し自ら回答、発話することができる。

[授業計画と内容]

復習する文法事項と会話・講読のトピックは以下の通りである。

第1回　ガイダンス、第1課への導入
第2回　第1課　ser/estar/hay, 直説法現在,不定詞,現在分詞,目的格人称代名詞, 会話「位置を説明する」

第3回　第2課　再帰動詞, 講読『Peculiaridades climatolo'gicas 気候の特質』
第4回　第3課　直説法現在完了と点過去, 会話「今日と昨日の出来事」
第5回　第4課　直説法点過去と線過去, 講読『El horario del di'a 一日のルーティン』
第6回　第5課　直説法過去完了と受身表現, 会話「買い物」
第7回　第6課　直説法未来と過去未来, 講読『La variedad de lenguas 言語の多様性』
第8回　第7課　関係詞, 会話「比べてみよう」
第9回　第8課　接続法現在（1）名詞節と形容詞節における用法, 講読『Estudiar en un pai's extranjero 留学』
第10回　第9課　接続法現在（2）副詞節その他, 会話「もしも願いが叶うなら」
第11回　第10課　命令表現, 講読『Anigos conectados 友人とのつながり』
第12回　第11課　接続法過去, 会話「道案内」
第13回　第12課　接続法現在完了と条件文, 講読『Si pudiera usar los idiomas libremente もしも外国語が自由に操れたら…』
第14回　文法発展（接続法過去完了と条件文）と作文
≪期末試験≫
第15回 期末試験・フィードバック

・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。
・必要であれば補助的にプリント教材等を挿入する。

スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く↓↓↓

スペイン語（中級II）（語学）(2)

[履修要件]

前期開講の「スペイン語 中級I」の学修者であること、もしくは接続法を含めた初級スペイン語知識を有していることが望まれる。

[成績評価の方法・観点]

平常点　20%［予習復習状況、音声パフォーマンスを評価する］
期末試験　80%［既習事項を理解・習得しているか判定する］

※４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

二宮 哲 『一歩進んだスペイン語－中級スペイン語－』（同学社,2016）ISBN:978-4-8102-0430-8

[参考書等]

（参考書）
上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2
辞書は初修時に使っていたものがあれば引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

※ 教員メール konishi.sakiko.45sアットマークst.kyoto-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29675 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級４時間コース）I Italian(4H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 菅野　類				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2,木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	イタリア語（初級I）										

[授業の概要・目的]

イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。
授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。
イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。

[到達目標]

現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションができるようになる。

[授業計画と内容]

第１週： オリエンテーションと発音
第２週： Lezione 1 [名詞、冠詞]
第３週： Lezione 2 [動詞 essere と avere]
第４週： Lezione 3 [形容詞]
第５週： Lezione 4 [直説法現在・規則動詞]
第６週： Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞]
第７週： Lezione 6 [人称代名詞]
第８週： Lezione 7 [再帰動詞]
第９週： テストと解説
第10週： Lezione 8 [命令法]
第11週： Lezione 9 [直説法近過去]
第12週： Lezione 10 [直説法半過去・大過去]
第13週： Lezione 11 [直説法未来・先立未来]
第14週： Lezione 12 [受動態]
第15週： テストと解説

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

各課の締めくくりで行う小テスト（30%）
前期中２回行うまとめのテスト(70%)

[教科書]

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座　－CD付き改訂版－』（朝日出版社)）ISBN:978-4-255-55311-5

イタリア語（初級４時間コース）I(2)へ続く↓↓↓

イタリア語（初級４時間コース）I (2)

[参考書等]

（参考書）
『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020
『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目39

科目ナンバリング	U-LET49 29676 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級４時間コース）II Italian(4H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 菅野　類				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2,木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	イタリア語（初級II)										

[授業の概要・目的]

イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。

[到達目標]

条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。

[授業計画と内容]

第１週： Lezione 13 [比較級・最上級]
第２週： Lezione 14 [関係詞]
第３週： Lezione 15 [ジェルンディオ]
第４週： Lezione 16 [条件法]
第５週： 文法補足１ciとne
第６週： Lezione 17 [接続法]
第７週： Lezione 17 [接続法・仮定文]
第８週： テスト
第９－14週： 遠過去および講読
第15週：テスト・フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

各課終了ごとの小テスト(30%)
後期に２回行われるまとめのテスト(70%)

[教科書]

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座　－CD付き改訂版－』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5
講読用のテキストは適宜こちらが用意する。

[参考書等]

（参考書）
『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020
『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業前に60分前後の予習が求められる。
講読回では90分程度。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目40

科目ナンバリング	U-LET49 29663 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イタリア語（会話） Spoken Italian					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Ida Duretto				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火5	授業形態	語学	使用言語	イタリア語
題目	Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano										

[授業の概要・目的]

Attraverso un percorso alla scoperta del cinema italiano, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un ’ampia varieta' di argomenti, che includono l ’arte e la musica, la letteratura, la storia, lo sport e il tempo libero. Grazie al cinema, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.

[到達目標]

Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita' con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua.

[授業計画と内容]

Lingua italiana e cinema. Corso di conversazione in italiano (I semestre)

1: Introduzione

2-15: Lingua italiana e cinema

Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.

[履修要件]

Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

[教科書]

Handouts

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

イタリア語（会話）(2)へ続く↓↓↓

イタリア語（会話）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

（その他（オフィスアワー等））

L’orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

学部共通科目41

科目ナンバリング	U-LET49 29663 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イタリア語（会話） Spoken Italian					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Ida Duretto				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	語学	使用言語	イタリア語
題目	All ’opera: lingua italiana e musica. Corso di conversazione in italiano										

[授業の概要・目的]

Attraverso un percorso alla scoperta dell ’opera lirica italiana, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un ’ampia varieta' di argomenti, che includono l ’arte, la musica, la storia e la letteratura. Grazie alla visione e al commento di brani di opere liriche selezionate, da Verdi a Puccini, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti piu' affascinanti della cultura italiana e acquisiranno una piu' sicura padronanza della lingua, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.

[到達目標]

Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarita'con la conversazione; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base. Saranno in grado di guardare e discutere un ’opera lirica in lingua.

[授業計画と内容]

All ’opera: lingua italiana e musica. Corso di conversazione in italiano (II semestre)

1: Introduzione

2-15: Lingua italiana e musica

Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.

[履修要件]

Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sara' basata sulla partecipazione alle lezioni. La modalita' seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

[教科書]

Handouts

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

イタリア語（会話）(2)へ続く↓↓↓

イタリア語（会話）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo le lezioni potranno essere assegnate letture da svolgere a casa.

（その他（オフィスアワー等））

L’orario di ricevimento verra' comunicato durante la prima lezione.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	U-LET49 29604 LJ48										
授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）(語学) Arabic					担当者所属・職名・氏名	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾　哲夫				
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	アラビア語の初級										

[授業の概要・目的]

アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教（イスラーム）の聖典『コーラン（クルアーン）』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム（イスラム教徒）もアラビア語の知識をもっている。
この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。

[到達目標]

アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。

[授業計画と内容]

（１）アラビア語についての概説（１回目）
（２）アラビア語学習法の概説（１回目）
（３）アラビア文字（２回目から５回目）
（４）名詞（３回目）
（５）冠詞（４回目）
（６）名詞の格変化（５回目）
（７）規則複数（６回目）
（８）形容詞の用法（７回目）
（９）疑問文（８回目）
（１０）場所の前置詞（９回目）
（１１）これまでの復習（１０回目）
（１２）存在文（１１回目）
（１３）国名とニスバ形容詞（１２回目）
（１４）数字の書き方と１～１０までの数詞（１３回目）
（１５）不規則複数（１）（１４回目）
（１６）色の表現（１５回目）
（１７）動詞完了形（１６回目）
（１８）辞書の引き方（１７回目）
（１９）不規則複数（２）（１８回目）
（２０）１１～１００までの数詞（１９回目）
（２１）これまでの復習（２０回目）
（２２）曜日の表現（２１回目）
（２３）動詞未完了形（２２回目）
（２４）名詞文と動詞文（語順）（２３回目）
（２５）時間表現（２４回目）
（２６）比較表現（２５回目）

アラブ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

アラブ語（初級）(語学)(2)

（２７）弱動詞（２６回目）
（２８）動詞派生形（１）（２７回目）
（２９）未来表現（２８回目）
（３０）動詞派生形（２）（２９回目）
（３１）これまでの復習と今後の学習方法（３０回目）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
西尾哲夫 『言葉から文化を読む―アラビアンナイトの言語世界』（臨川書店）（とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第１章）
西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への３０の扉』（ミネルヴァ書房）（中東・イスラーム世界の理解のために必読）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業毎に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 39608 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）(語学) Iranian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山　雅樹				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	イラン語（初級）										

[授業の概要・目的]

この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。

[到達目標]

基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。

[授業計画と内容]

（前期）
第1回　イントロダクション、文字
第2回　発音と表記の注意点
第3回　名詞、基本的な文章、疑問詞
第4回　形容詞、エザーフェ、人称代名詞①
第5回　過去形、前置詞
第6回　現在形①、複合動詞①
第7回　現在形②、未来形、副詞①
第8回　現在完了形、命令形
第9回　仮説法、助動詞①
第10回　助動詞②、人称代名詞②、受動態
第11回　接続詞①②
第12回　関係詞、祈願文、副詞②
第13回　接続詞③、複合動詞②、過去分詞、現在分詞、その他
第14回　数詞
第15回　確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について
（後期）
第16～18回　現代文（物語）の読解（1）～（3）
第19～21回　現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）
第22～29回　古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）
第30回　フィードバック（詳細については授業内で指示する）

前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。
後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。
原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。

イラン語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

イラン語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

※各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

[参考書等]

（参考書）
特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』(大学書林)などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 39620 LJ48										
授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）(語学) Sumerian					担当者所属・職名・氏名	国士舘大学イラク古代文化研究所 特別研究員 森　若葉				
配当学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介										

[授業の概要・目的]

古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。

この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。

文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。

比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となってのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。

[到達目標]

世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する.

また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。

＜前期＞楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。

第1回　シュメール語の背景－メソポタミア文明の世界について
第2回　シュメール語と楔形文字について
第3回　楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）
第4回　楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）
第5回　シュメール語文法（１）、楔形文字文献について
第6回　シュメール語文法（２）、王碑文を読む
第7回　シュメール語文法（３）、王碑文を読む
第8回　シュメール語文法（４）、行政文書を読む
第9回　楔形文字粘土板実習－粘土板を作成
第10回　シュメール語文法（５）、行政文書を読む
第11回　シュメール文学について
第12回　シュメール文学作品を読む（１）
第13回　シュメール・メソポタミアの「法典」紹介
第14回　裁判文書、行政文書を読む
第15回　シュメール文学作品を読む（２）

シュメール語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(2)

＜後期＞
　文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。
第1回　文献から見るシュメールの生活
第2回　シュメール語文法（６）、行政文書を読む
第3回　シュメール語文法（７）、行政文書を読む
第4回　シュメール語文法（８）、行政文書を読む
第5回　シュメール文学作品を読む（３）
第6回　シュメール語文法（９）、行政文書を読む
第7回　シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
第8回　京都大学総合博物館所蔵資料紹介
第9回　京都大学総合博物館所蔵資料を読む
第10回　京都大学総合博物館粘土板見学実習
第11回　シュメール文学作品を読む（４）
第12回　シュメール文学作品を読む（５）
第13回　行政文書、王碑文を読む
第14回　行政文書、王碑文を読む
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

　平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定.

[教科書]

　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する。
　楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

　事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29624 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）(語学) Swahili					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 井戸根　綾子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（初級）										

[授業の概要・目的]

バンツー諸語に属すスワヒリ語は、タンザニアやケニアなど東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。またテキストの会話表現には、衣食住の生活習慣など文化的あるいは社会的な事柄が多く含まれる。その背景について授業中に説明を加えることで、言語だけでなくその地域の文化やものの考え方に関しても知識を深める。関連する実物や画像、映像は授業中に紹介される。

[到達目標]

１：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する
２：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てることができる
３：短い日常会話の流れを把握できる
４：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション／スワヒリ語文法の概要
第2回　第1課／現在時制
第3回　第2課／コピュラ文
第4回　第4課／所有表現
第5回　第5課／未来時制
第6回　名詞クラス
第7回　第3課／存在表現
第8回　第1～5課の復習と補足説明
第9回　第6課／あいさつ表現
第10回　第7課／過去時制
第11回　第8課／完了時制
第12回　第9課／形容詞
第13回　第10課／接続形
第14回　第6～10課の復習と補足説明
第15回　期末試験
第16回　フィードバック
なお、授業の進度は適宜調整する

スワヒリ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

スワヒリ語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス+　スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のＣＤを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29625 LJ48										
授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）(語学) Swahili					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 井戸根　綾子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	スワヒリ語（中級）										

[授業の概要・目的]

テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその文化的背景についても説明し、関連する実物や画像、映像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化やものの考え方についての知識も深める。

[到達目標]

１：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解する
２：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話すことができる
３：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる
４：東アフリカの文化やものの考え方に関する知識を深める

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション／第1～10課の復習
第2回　第11課／時間
第3回　第12課／指示詞
第4回　第13課／使役
第5回　第14課／条件節
第6回　関係節
第7回　第15課／受身
第8回　第11～15課の復習と補足説明
第9回　第16課／相互形
第10回　第17課／仮想時制
第11回　第18課／複合時制
第12回　第19課／ことわざ・なぞなぞ
第13回　第20課／手紙の書き方
第14回　第16～20課の復習と補足説明
第15回　期末試験
第16回　フィードバック
なお、授業の進度は適宜調整する

スワヒリ語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

スワヒリ語（中級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

予習・復習・課題の提出など授業への参加状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子 『ニューエクスプレス+　スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。各レッスンのスキットについては、予め付属のＣＤを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。
課題の提出を求められる場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29648 LJ48										
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（初級A）(語学) Korean					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学外国語学部　准教授 杉山　豊				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（初級）										

[授業の概要・目的]

朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。

[到達目標]

終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。

[授業計画と内容]

一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。

第1回：ガイダンス
第2回：文字(1)（第1課相当）
第3回：文字(2)（第1課相当）
第4回：発音(1)（第2課相当）
第5回：発音(2)（第2課相当）
第6回：単語の表記(1)（第3課相当）
第7回：単語の表記(2)（第3課相当）
第8回：単語の発音(1)（第4課相当）
第9回：単語の発音(2)（第4課相当）
第10回：現在終止形（上称体）（第5課相当）
第11回：名詞と助詞（第6課相当）
第12回：数詞と助数詞(1)（第7課相当）
第13回：数詞と助数詞(2)（第7課相当）
第14回：否定と肯定（第8課相当）
第15回：期末試験・フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）と学期末試験（70点）。

朝鮮語（初級A）(語学)(2)へ続く↓↓↓

朝鮮語（初級A）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目48

科目ナンバリング	U-LET49 29649 LJ48										
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（初級Ｂ）(語学) Korean					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学外国語学部　准教授 杉山　豊				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（初級）										

[授業の概要・目的]

朝鮮語を知らない学生を対象に、初歩から文字、発音、初級文法、初級会話を教授し、あわせて朝鮮・韓国の文化、歴史にもふれる。

[到達目標]

終了時点でハングルが読め、簡単な会話ができることを目標とする。

[授業計画と内容]

一学期の進度予定は以下の通り。ただし、受講者の理解度や興味・関心に応じ、解説の補完、発展的内容の追加を随時行う。

第1回：ガイダンス
第2回：略待上称体(1)（第9課相当）
第3回：略待上称体(2)（第9課相当）
第4回：変則用言(1)（第10課相当）
第5回：変則用言(2)（第10課相当）
第6回：過去終止形（第11課相当）
第7回：未来終止形（第12課相当）
第8回：敬語形（第13課相当）
第9回：命令・勧誘・禁止（第14課相当）
第10回：連用形（第15課相当）
第11回：連体形（第16課相当）
第12回：各種接続語尾（第17課相当）
第13回：各種補助用言（第18課相当）
第14回：各種補助用言)（第18課相当）
第15回：期末試験・フィードバック

[履修要件]

前期よりの継続なので、前期に初級を履修しているか、またはそれと同等の学習歴のある者。

[成績評価の方法・観点]

平常点（30点）と学期末試験（70点）。

朝鮮語（初級Ｂ）(語学)(2)へ続く↓↓↓

朝鮮語（初級Ｂ）(語学)(2)

[教科書]

松尾勇・金善美 『初めての韓国語』（同学社）ISBN:978-4-8102-0267-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の本文、会話文、及び新出単語に目を通しておくこと。
復習：各回の学習内容を整理し、理解を定着させること。

（その他（オフィスアワー等））

出席を重んじるので、毎回出席し、復習すること。
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29650 LJ48										
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（中級Ａ）(語学) Korean					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学 外国語学部　教授 朴　真完				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	朝鮮語(中級)										

[授業の概要・目的]

朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。

[到達目標]

中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　1．希望表現、2．過去形、3．l語幹用言について、4．尊敬の語尾と過去形の融合形
第2回　1．感嘆・婉曲・余韻の語尾、2．聞き手の意志を尋ねる終結語尾、3．「～したあと」、4．意思表明・約束の終結語尾
第3回　1．例えの表現、2．丁寧に勧める終結語尾、3．譲歩の表現、4．可能と不可能
第4回　1．目的の表現、2．感嘆の終結語尾、3．仮定の接続語尾、4．「～するまで」
第5回　1．推量表現(1)、2．根拠の終結語尾、3．過去形の縮約形、4．丁寧さを表す助詞
第6回　1．尊敬の語尾、2．同意を求める終結語尾、3．丁寧な疑問の終結語尾(動詞)、4．先行動作や理由・根拠の接続語尾
第7回　1．連用形＋補助用言、2．前置き・逆接の接続語尾、3．接続語尾-keiによる慣用表現、4．「～てしまう」
第8回　1．依頼の表現、2．経験の表現、3．経過の表現、4．「～について、関して」
第9回　1．未来連体形による表現、2．仮定条件の接続語尾、3．目標の接続語尾、4．常体とやわらかい敬体
第10回　1．不審を表す終結語尾、2．名詞形語尾、3．理由を表す分析的形式、4．非関与を表す接続語尾
第11回　1．変則用言、2．「～じゃないですか」3．意図表現と意志表現、4．くだけた並列の助詞
第12回　1．準備を表す補助用言2．変則活用1)h変則、2)t変則、3)le変則、4)lu変則、3．比較対象の助詞、4．接尾辞-talahta
第13回　1．付帯状況の接続語尾、2．依頼や命令の根拠を表す接続語尾、3．命令・勧誘の最敬体終止形語尾、4．e変則活用
第14回　1．意図の表現、2．疑問形語尾を用いた推量表現、3．程度の助詞、4．対照させる接続語尾
第15回　期末試験、フィードバック

[履修要件]

特になし

朝鮮語（中級Ａ）(語学)(2)へ続く↓↓↓

朝鮮語（中級Ａ）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（20点）、小テスト（１回、20点）、期末試験（60点）

[教科書]

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から…－中級韓国語教材－』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連ＵＲＬ）

https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29651 LJ48										
授業科目名 <英訳>	朝鮮語（中級Ｂ）(語学) Korean					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学 外国語学部　教授 朴　真完				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	朝鮮語（中級）										

[授業の概要・目的]

朝鮮語文法における中級文法(初級に続く内容)を一通り解説・練習する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。文法説明は講義形式で行うが、会話と読解はペア練習または発表形式で練習する。

[到達目標]

中級朝鮮語文法を身につけ、会話において直接その知識を活用できるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　1．原因・目的の接続語尾、2．逆説の助詞、3．願望表現、4．複数の接尾辞、5. 意外さ・感嘆を表す副詞

第2回　1．名詞「久し振り」、2．並列の接続語尾、3．引用の語尾、4．逆接の接続語尾、5．中断の接続語尾
第3回　1．程度・限界の接続語尾、2．次善の助詞、3．下称の平叙形・感嘆形、4．ため口、5．可能性の表現
第4回　1．未来連体形＋依存名詞kyem、2．連用形＋補助動詞kata、3．接続語尾-(u)lci、4．名詞形語尾-m/um、5．助詞(u)losse
第5回　1．下称の疑問形・命令形・勧誘形・禁止形、2．軽微な詠嘆の語尾、3．…することはする、4．推量・意志の表現(ため口)、5．羅列の接続語尾-(u)lya
第6回　1．驚き・不審・不服の終結語尾、2．方法の表現、3．引用形語尾、4．引用文を受ける述語、5．動詞の現在連体形＋tailo
第7回　1．連用形＋補助動詞ota、2．推量・意志の表現(略体上称)、3．-i/ki/li/hi-による動詞の派生、4．引用文の連体形、5．思い込みの表現
第8回　1．接続語尾-aya/eya/yeya、2．代名詞mueの感嘆詞的用法、3．…することもある、4．連体形＋chailo、5．…してばかりいる
第9回　1．条件の接続語尾、2．許可の表現、3．理由の接続語尾(書き言葉)、4．例示の接続語尾、5．逆説の接続語尾(書き言葉)
第10回　1．人数の助詞、2．u変則活用、3．終結語尾-nunkel、4．補助動詞chekhata、5．禁止の表現
第11回　1．接続語尾-tanuntei、2．終結語尾-tanikka、3．試行の補助動詞、4．寸前の補助形容詞
第12回　1．未来連体形＋cikyeng、2．伝聞感嘆形、3．…しようと思っていたところだ、4．終結語尾-ulkel
第13回　1．例示の助詞、2．驚き・不審・不服の終結語尾＋yo、3．接続語尾-tani/ntani/nuntani、4．副詞「どれくらい」
第14回　1．形容詞連用形＋poita、2．決定の表現、3．後悔を表す表現、4．伝聞表現
第15回　期末試験、フィードバック

朝鮮語（中級Ｂ）(語学)(2)へ続く↓↓↓

朝鮮語（中級Ｂ）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業での発表（20点）、小テスト（１回、20点）、期末試験（60点）

[教科書]

松尾勇・金善美・千田俊太郎 『佳子のソウル留学から…－中級韓国語教材－』（同学社）ISBN: 978-4-8102-0272-4

[参考書等]

（参考書）

油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『小学館 韓日辞典』（小学館）ISBN:978-4095157214

（関連ＵＲＬ）

https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/korean/(小学館韓日辞典・日韓辞典のiPhone用アプリです。)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は教科書に沿って行うので、授業前に次回の内容を予習して下さい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 29635 LJ48										
授業科目名 <英訳>	フランス語（中級）(語学) French					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Justine LE FLOC'H				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	語学	使用言語	フランス語
題目	Intermediate French										

[授業の概要・目的]

This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French language and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.

At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which addresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.

The class will be conducted in French by a native speaker.

[到達目標]

Upon the successfull completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:
- converse with ease when dealing with routine tasks and social situations
- read and interpret narratives, including more complex texts on topic of interest
- present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics
- identify and discuss fundamental elements of French culture

[授業計画と内容]

After an introductory lecture presenting the goals and exercises of the course (week 1), we will practice various exercises: oral and written comprehension, oral and written production (weeks 2-14).

Total:14 classes and 1 feedback

[履修要件]

All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.

[成績評価の方法・観点]

The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).

[教科書]

Dodin, Fafa, and al 『Edito. Méthode de français. A2』（2022）ISBN:9782278104109（Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Second Edition.）

フランス語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

フランス語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	U-LET49 29635 LJ48										
授業科目名 <英訳>	フランス語（中級）(語学) French					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Justine LE FLOC'H				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	語学	使用言語	フランス語
題目	Intermediate French										

[授業の概要・目的]

This course is for students who have already studied French for one year or more. It will provide them with the opportunity to systematize and reinforce their knowledge of French language and culture, and allow them to work further on their command of written and spoken French.

At the end of the year, students should be able to pass the intermediate French proficiency test designed by the French Ministry of Education (DELF A2 or B1), which adresses four language skills: reading, writing, listening, and speaking.

The class will be conducted in French by a native speaker.

[到達目標]

Upon the successfull completion of this course, students will have learned the vocabulary, grammatical structures, and communicative norms to allow them to do the following in French:
- converse with ease when dealing with routine tasks and social situations
- read and interpret narratives, including more complex texts on topic of interest
- present, orally and in writing, discourse on a variety of familiar topics
- identify and discuss fundamental elements of French culture

[授業計画と内容]

After an introductory lecture presenting the goals and exercises of the course (week 1), we will practice various exercises: oral and written comprehension, oral and written production (weeks 2-14).

Total:14 classes and 1 feedback

[履修要件]

All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.

[成績評価の方法・観点]

The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 test during the semester, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work).

フランス語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

フランス語（中級）(語学)(2)

[教科書]

Dodin, Fafa, and al 『Edito. Méthode de français. A2』（2022）ISBN:9782278104109（Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Second Edition.）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

学部共通科目53

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48										
授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）(語学) French					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Justine LE FLOC'H				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	フランス語
題目	Advanced French										

[授業の概要・目的]

This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.

Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.

The class will be conducted in French by a native speaker.

[到達目標]

- Strengthen listening comprehension and reading from various documents
- Consolidate grammar and lexical use
- Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing
- Develop communicative skills

[授業計画と内容]

After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).

Total:14 classes and 1 feedback

[履修要件]

To attend to this class, students must already have a good level in French.

[成績評価の方法・観点]

The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).

フランス語（上級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』（2022）ISBN:9782278103669（Editor : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition.）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	U-LET49 39636 LJ48										
授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）(語学) French					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定准教授 Justine LE FLOC'H				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	フランス語
題目	Advanced French										

[授業の概要・目的]

This course is designed to give students who have already begun to deepen their understanding of the French language and culture the opportunity to master a fuller range of vocabulary, structures and cultural information.

Upon completion of this course, students should be able to take the advanced French proficiency test (DELF B2 or DALF C1), required to enter French universities.

The class will be conducted in French by a native speaker.

[到達目標]

- Strengthen listening comprehension and reading from various documents
- Consolidate grammar and lexical use
- Increase knowledge on oral and written structures in French applied to academic (or formal) speaking and writing
- Develop communicative skills

[授業計画と内容]

After an introductory lecture (week 1), we will train on various exercises, fitting the schemes of the DELF/DALF exam: oral and written comprehension, oral and written production (week 2-14).

Total:14 classes and 1 feedback

[履修要件]

To attend to this class, students must already have a good level in French.

[成績評価の方法・観点]

The students will be evaluated through continuous assessment: this includes 2 tests during the semester, but also participation (classroom behavior, personal work).

フランス語（上級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

フランス語（上級）(語学)(2)

[教科書]

Myriam Abou-Samra, Elodie Heu, Marion Perrard, Amadine Caraco 『Edito. Méthode de français. B2』（2022）ISBN:9782278103669（Publisher : Didier Français Langue Etrangère. Fourth Edition.）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular class attendance is essential. Short assignments will occasionally be given.

（その他（オフィスアワー等））

Please discuss any appointment with the teacher.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	U-LET49 28005 LJ36										
授業科目名 <英訳>	博物館学Ⅰ(講義) Museum Science I					担当者所属・職名・氏名	近畿大学文芸学部　准教授 松岡　久美子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火1	授業形態	講義	使用言語	日本語
題目	博物館概論										

[授業の概要・目的]

この講義の目的は、博物館に関する基礎的な知識を身につけることにある。博物館が成立した歴史的・文化的背景を振り返り、様々な博物館活動について通覧し、あわせて今日の博物館を取り巻く諸課題について考察する。

[到達目標]

博物館に関する基礎的な知識を身につけ、博物館や学芸員の今後のあり方について各自が自覚的かつ主体的に考える力を養う。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。なお講義の進みぐあいや時事問題への言及などに応じて同一テーマの回数や順序等を変える場合がある。
１．博物館とは、学芸員とは
２．西欧における博物館の歴史
３．日本における博物館の歴史
４．博物館の分類・統計から見る博物館
５．博物館の歴史に関する諸問題（フィードバック）
６．館種別にみる博物館　総合博物館
７．館種別にみる博物館　歴史博物館・郷土博物館
８．館種別にみる博物館　美術館
９．総合・人文系博物館に関する諸問題（フィードバック）
１０．館種別にみる博物館　自然史博物館・理工博物館・動植物園水族館
１１．自然史系博物館に関する諸問題（フィードバック）
１２．文化財行政と博物館
１３．学校教育と博物館
１４．社会の要請に応える博物館活動
１５．総括

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート　６０％
講義時に実施する小レポート　４０％
出席回数が６０％に満たない場合は、原則として単位を認めません。

博物館学Ⅰ(講義)(2)へ続く↓↓↓

博物館学Ⅰ(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

様々な分野の博物館に実際に足を運び、それぞれの館の可能性や課題について考える。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先　kumiko.matsuoka@lac.kindai.ac.jp
連絡時は必ず科目名、所属、氏名を明記してください。

【履修上の注意点】
資格取得のための科目であり卒業に必要な単位としては認められないので、注意して履修すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 28006 LJ36										
授業科目名 <英訳>	博物館学II(講義) Museum Science II					担当者所属・職名・氏名	近畿大学文芸学部　准教授 松岡　久美子				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火1	授業形態	講義	使用言語	日本語
題目	博物館経営論										

[授業の概要・目的]

20世紀後半以降を中心に、博物館を取り巻く様々な制度の変遷やその背景、課題について取り上げる。博物館をとりまく環境が大きく変化していく中で、博物館が存続し、社会的意義を果たしていくためにはどうすればよいかを考察する。

[到達目標]

博物館を取り巻く様々な問題に関心をもち、歴史的経緯を踏まえた上で現状を分析し、経営的視点を持って今後の博物館のあり方について考察できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の順に講義を進める。なお講義の進みぐあいや時事問題への言及などに応じて変更が生じる場合がある。
１．博物館の経営
２・３．国立博物館をとりまく制度と課題
４・５．公立博物館をとりまく制度と課題
６．博物館の公共性・公益性をめぐる諸課題（フィードバック）
７・８．私立博物館をとりまく制度と課題
９・１０．大学博物館をとりまく制度と課題
１１．私立博物館、大学博物館をめぐる諸問題（フィードバック）
１２．使命と評価
１３．博物館の定義と倫理規定、行動規範
１４．リスクマネジメント
１５．博物館をとりまく今日的課題（フィードバック）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート　６０％
講義時に実施する小レポート　４０％
出席回数が６０％に満たない場合は、原則として単位を認めません。

博物館学II(講義)(2)へ続く↓↓↓

博物館学II(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館を取り巻く時事問題について情報収集し、分析し、考察する習慣を身につける。
様々な分野の博物館をできるだけ多く、問題意識を持ちながら見学する。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先　kumiko.matsuoka@lac.kindai.ac.jp
連絡時は必ず科目名、所属、氏名を明記してください。

【履修上の注意点】
資格取得のための科目であり卒業に必要な単位としては認められないので、注意して履修すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 28007 LJ36										
授業科目名 <英訳>	博物館学III(講義) Museum Science III					担当者所属・職名・氏名	京都国立博物館 学芸課 特任研究員　宮川　禎一				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	講義	使用言語	日本語
題目	博物館学III（博物館資料論）										

[授業の概要・目的]

博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の収集・搬入の方法、また作品の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。すなわち資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらには実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。

[到達目標]

1　博物館・美術館の成り立ちと意義－博物館とはなにかを理解する
2　作品の種類と性質－資料の性質と収蔵の問題を考えて理解する
3　博物館における作品の収集とはー寄託・寄贈・購入の実態を理解する
4　作品の保存処理ー作品を科学的に守る方法を理解する
5　収蔵庫の要件－保存環境の問題を理解する
6　作品の貸借と作品保護－保存と公開のあいだにある問題を理解する
7　展覧会の作り方１－展示を構想し出品をめざすことの理解
8　展覧会の作り方２－展示に際しての諸問題があることを理解する
9　展覧会図録の作り方－鑑賞を助け、未来に記録する意義を理解する
10　良い展覧会とは何か？－人と作品の関係と展覧会の意義を考える
11　実際に展示を見学しようー実際の展示からわかる保存と公開の問題を考える
12　博物館美術館の未来－デジタル化の行方と未来の展示を考える
13　世界の博物館・美術館－世界にある様々な博物館美術館のありかたを考える
14　学芸員になるにはー求められる学芸員の資質に関して考える
15　博物館をめぐるディスカッションーこれまでの講義を受けて学生と討論する

[授業計画と内容]

1　博物館美術館の成り立ちと意義
2　作品の種類と性質
3　博物館における作品の収集
4　作品の保存処理
5　収蔵庫の要件
6　作品の貸借と作品保護
7　展覧会の作り方（１）
8　展覧会の作り方（２）
9　展覧会図録の作り方
10　良い展覧会とは何か？
11　実際に展示を見学しよう（京都大学総合博物館の展示見学）
12　博物館美術館の未来
13　世界の博物館・美術館

博物館学III(講義)(2)へ続く↓↓↓

博物館学III(講義)(2)

14　学芸員になるには
15　博物館をめぐるディスカッション

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

受講態度およびレポートの成績で評価する。
受講態度30%、レポート内容70%の割合で評価する。

[教科書]

講義中に適宜資料等を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
博物館・美術館の展覧会図録を図書館などで読んで、図録のありかたに興味をもってほしい。また日本歴史・考古学・美術史などの図書も積極的に読んで欲しい。

[授業外学修（予習・復習）等]

学芸員を目指し、資格を得ようとする学生のための講義であるので、受講生は日ごろから問題意識をもって博物館・美術館などの見学を行ってほしい。また講義を超えて展示物や解説から自己の学術的興味の範囲を広げてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

日時は定めていないが、京都国立博物館での講義（例えば土曜日午後など）を行うのでそのつもりでいてほしい。

【履修上の注意点】
資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので
注意して履修すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 28107 SJ36										
授業科目名 <英訳>	書道(演習) Calligraphy					担当者所属・職名・氏名	京都市立奏和高等学校 教諭 万殿　伸昭				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	書道										

[授業の概要・目的]

書道や書写を学ぶための基礎的な力を養う。これからの書の学習のための必要な知識とともに、書の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。さらには書の表現力を豊かにするために、歴代の漢字古典および古筆の臨書を通してそれぞれの特徴を理解し技法を習得する。

[到達目標]

・漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解する。
・実技の習得を目的とし、課題に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。
・学校教育の現場で必要とされる書を学ぶ心得や知識、また楷書・行書・仮名の基本を習得する。
・文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる能力を養う。

[授業計画と内容]

第１回 ガイダンス・書写と書道、その研究倫理について
第２回 硬筆①　平仮名・片仮名の学習
第３回 硬筆②　漢字の基本学習
第４回 毛筆の基本学習
第５回 楷書の学習、漢字と仮名の調和
第６回 行書の学習、漢字と仮名の調和
第７回 古典による学習導入
第８回 臨書①　唐代の楷書
第９回 臨書②　行書「蘭亭序」
第10回 臨書③　行書「風信帖」
第11回 臨書④　隷書「曹全碑」
第12回 仮名①　基本学習
第13回 仮名②　単体
第14回 仮名③　連綿
第15回 提出課題のフィードバック

[履修要件]

実技を伴う科目であるので、毎回の書道道具の携帯が必要となる。
半紙・墨等の消耗品も各自持参すること。

[成績評価の方法・観点]

提出課題（８０％）課題への積極的な学習と授業での意欲的な姿勢（２０％）を総合的に判断し、評価する。

書道(演習)(2)へ続く↓↓↓

書道(演習)(2)

課題（100点満点）は毎授業で提出、８割の出席を必須とする。

[教科書]

全国大学書道学会編 『書の古典と理論　改訂版』（光村図書株式会社）ISBN:978-4-89528-681-7（後期の書道の授業においても使用。）
使用テキストのほか、授業内容に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
実際の書に触れるために、書展に出向くことを推奨する。
折につけ書展の情報などを告知する。

[授業外学修（予習・復習）等]

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

【履修上の注意点】
資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので
注意して履修すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 28107 SJ36										
授業科目名 <英訳>	書道(演習) Calligraphy					担当者所属・職名・氏名	京都市立奏和高等学校 教諭 万殿　伸昭				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	書道										

[授業の概要・目的]

後期の授業では、より芸術性を帯びた書を学んでいくことを目的とする。歴代の漢字古典および古筆の臨書を中心に学習する。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述し、それぞれの特徴を理解し技法を習得する。

[到達目標]

中国・日本の古典古筆の臨書実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけではなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを理解する。また、名筆を生み出す時代状況も考察する。

[授業計画と内容]

第１回 ガイダンス・書道史上における古典古筆について。
第２回 硬筆①　基本的な表現
第３回 硬筆②　日常書
第４回 殷代の書　甲骨文字　骨に刻まれた文字の表現を考える
第５回 周代の書　金文「大盂鼎」　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第６回 秦代の書　小篆「泰山刻石」　小篆の書法について考える
第７回 漢代の書　木簡「張家山前漢簡」　隷書の書法について考える
第８回 三国時代の書　楷書「薦季直表」　楷書の変遷を知る
第９回 楷書「雁塔聖教序」
第10回 行書「孔侍中帖」
第11回 行書「屏風土代」　日本の三筆・三蹟を考察する
第12回 平安朝の古筆　仮名の美を考察する
第13回 「高野切第一種」部分練習
第14回 「高野切第一種」清書
第15回 提出課題のフィードバック

[履修要件]

実技科目でもあるため、毎回書道用具の携帯が必要となる。
また、墨・半紙などの消耗品も持参すること。

書道(演習)(2)へ続く↓↓↓

書道(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

提出課題（80%）課題への積極的な学習や授業での意欲的な姿勢（20%）を総合的に判断し、評価する。
課題（100点満点）は毎授業で提出、８割の出席を必須とする。

[教科書]

全国大学書道学会 『書の古典と理論　改訂版』（光村図書出版株式会社）ISBN:978-4-89528-681-7
（前期の書道の授業においても使用。）
使用テキストのほか、授業内容に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
出来るだけ積極的に書道の展覧会に足を運び、鑑賞力をつけることを勧める。

[授業外学修（予習・復習）等]

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。
各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

（その他（オフィスアワー等））

【履修上の注意点】
資格取得のための科目であり、卒業に単位として認められないので
注意して履修すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 28041 SJ36										
授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 大崎　紀子				
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	アカデミック・ライティング（1）										

[授業の概要・目的]

学術論文やエッセイ（小論文）などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行うとともに、引用の方法についても基本的な知識と技術を学ぶ。

[到達目標]

英語と日本語の修辞法の違いを理解し、論理的で説得力のある文章を英語で書けるようになる。

[授業計画と内容]

1　Guidance この授業の進め方
2　Introduction. 書き言葉の語彙
3-4　学術英語の基礎知識
5　パラグラフの構造の理解、冠詞
6－8　パラグラフの統一性と一貫性
9－10　課題作文の添削と解説
11-12　引用の方法、文献目録の書き方（基本篇）
13-14　課題作文の添削と解説
15　まとめ
※フィードバック方法は授業中に説明します。

[履修要件]

受講者20人まで

[成績評価の方法・観点]

授業参加（クイズ、宿題提出を含む。30点）、作文課題（2-3回、計70点）

[教科書]

プリント教材を配布します。

[参考書等]

（参考書）

Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』（Pearson Longman, 2017.）

Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』（The University of Michigan Press, 2012）

英語論文作成法(演習)(2)へ続く↓↓↓

英語論文作成法(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

教材は、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

（その他（オフィスアワー等））

質問があればメールで随時尋ねてください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 28041 SJ36										
授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 大崎　紀子				
配当学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	アカデミック・ライティング（2）										

[授業の概要・目的]

英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。

[到達目標]

英語と日本語の修辞法の違いを理解するとともに、剽窃を疑われない適切な引用の方法を身に着け、その技術を自信をもって使いこなせるようになる。

[授業計画と内容]

1　Introduction
2　Paraphrasing（書き換え）の基礎と演習
3　引用と時制、類義語
4　書き換え練習の添削と解説
5　履歴書、自己推薦書の書き方と演習
6-7　パラグラフから小論文へ
8-9　課題作文（CV）の添削と解説
10　比較・対照論文の書き方
11　分詞構文の使い方
12-14　小論文作成演習（作文の添削と解説）
15　まとめ
※フィードバックの方法は授業中に説明する。

[履修要件]

前期を受講していることが望ましい。（受講者20人まで）

[成績評価の方法・観点]

授業参加（クイズ、宿題提出を含む。30点）、課題作文（3回、計70点）

[教科書]

プリント教材を配布する。

[参考書等]

（参考書）

Alice Oshima and Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series 4: Paragraph to Essays, Fifth Edition.』（Pearson Longman, 2017.）

Swales, John M. and Feak, Christine B. 『Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, third edition.』（The University of Michigan Press, 2012.）

英語論文作成法(演習)(2)へ続く↓↓↓

英語論文作成法(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

教材プリントは、事前に配布しますので、予習をして授業に臨んでください。

（その他（オフィスアワー等））

質問はメールで随時お尋ねください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19702 SJ36										
授業科目名 <英訳>	人文学の多面的展開：ネイチャーとカルチャーを問い直す Introduction to Humanities					担当者所属・職名・氏名	文学研究科 特定准教授 大西 琢朗 非常勤講師 白木 正俊 非常勤講師 長岡 徹郎 非常勤講師 小林 敬 非常勤講師 TATARCZUK, Marcin Adam 非常勤講師 藤貫 裕 非常勤講師 三上 航志 非常勤講師 田多井 俊喜				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期不定	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	人文学の多面的展開：ネイチャーとカルチャーを問い直す										

[授業の概要・目的]

開講期間：2023年9月27日（水）～2024年1月17日（水）（12/27休講）
後期6講時 18時10分～19時40分（毎週水曜日）
講義場所：キャンパスプラザ京都（対面）、Zoom（オンライン）

この授業では、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者たちが、各自の研究内容に則してリレー形式で講義を行います。
「自然なあり方」と「不自然なあり方」。普段なにげなく、そんな分け方を判断の基準にしていませんか？でもよく考えてみると、「自然」と呼んでいるものも、私たちの文化的な土壌の上に人工的に作られたものだったり、そのように価値づけるように知らず知らずに方向づけられていたりすることがあるのではないでしょうか。人間の手で生み出された「文化（カルチャー）」と、人工的でない「自然（ネイチャー）」の境界線というのは、実は意外と曖昧なものなのかもしれません。こうした問題意識から、本授業では「文化（カルチャー）」と「自然（ネイチャー）」という二つの概念を、社会学・現代史学・哲学・倫理学といった、人文学の多様な立場から検討し、その二項関係を問い直すことを試みます。人間の基本的あり方としての性別・性差の問題から、私たちが暮らしている都市のあり方や歴史について、さらには環境問題への取り組み方まで。また、「文化」によって異なる「自然」という言葉自体の意味や、それらの理解が反映して形成される私たち自身の美的な価値観の問題などなど。異なる分野・異なる切り口からアプローチしてゆくリレー講義を通じて、問題の多角的な捉え方や柔軟な思考を養っていきましょう。また、授業全体を通して「人文学的」観点から人間の営みを分析する面白さを感じてもらいたいと思います。
各回の授業では、受講生同士のグループディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを積極的に活用し、授業で学んだ知識を自分自身の関心と結びつけながら主体的に考察する力を養うことも併せて目的としています。また、本授業はオンライン授業と対面授業とを組み合わせた「ハイブリッド型授業」にて実施します。対面とオンラインの両方の特性を活かした多様な学びを経験する機会となるでしょう。

[到達目標]

・日常的に受容しているさまざまな事象について、広い視野と洞察力をもって批判的に議論・検討することができるようになる。
・「自然」と「文化」の境界に関する諸問題について、具体的な例を挙げながら、人文学で議論されてきた様々な概念を用いて、分析することができる。
・学問的な知識や主体的な学びの方法を身につけると同時に、授業で学んだことを応用しつつ、自

人文学の多面的展開：ネイチャーとカルチャーを問い直す(2)へ続く↓↓↓

ら設定したテーマでレポートをまとめることができる。

[授業計画と内容]

第1回 9/27：イントロダクション（大西・全講師）［オンライン］

・ネイチャーとカルチャーをつなぐ性差（田多井）
第2回(10/4)：生物学的性差と社会的性差の間の性自認［対面］
第3回(10/11)：生物学的性差と性差の社会的平等［対面］

・「カルチャー」における「ネイチャー」の多様性（長岡）
第4回(10/18)：文化で異なる「ネイチャー」の意味の多様性とは?［オンライン］
第5回(10/25)：日本文化における「ネイチャー」の表現って何だろう?［対面］

・日本美学における「カルチャー」と「ネイチャー」点描（藤貫）
第6回(11/1)：「カルチャー」の「ネイチャー」を振り返る―能楽と幽玄［オンライン］
第7回(11/8)：「カルチャー」が「ネイチャー」を問い質す―器の美と芸術性［対面］

・モザイク都市「京都」の実像に歴史から迫る！（白木）
第8回(11/15)：京都は本当に1200年の歴史を有する古都なのか?［オンライン］
第9回(11/22)：モザイク都市「京都」をつなぐ糸を紐解く［対面］

・観光から考える文化の消費と開発（タタルチュック）
第10回(11/29)：京都はなぜ観光都市になったか？［オンライン］
第11回(12/6)：観光は文化の敵か味方か？［対面］

・レポートの書き方とまとめ（三上・小林）
第12回(12/13)：レポートの書き方（三上）［オンライン］
第13回(12/20)：レポート指導（小林）［オンライン］
第14回(1/10)：自然保護の倫理を考える(まとめ)（三上）［対面］
第15回(1/17)：レポート発表（小林）［対面］

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点60点+レポート40点(ただし、2/3以上の 出席がない場合は評価の対象としない)

[教科書]

授業中に指示する

人文学の多面的展開：ネイチャーとカルチャーを問い直す(3)へ続く↓↓↓

人文学の多面的展開：ネイチャーとカルチャーを問い直す(3)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に、各担当者から、課題が提示されることがあります。その指示にしたがって下さい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19610 LJ48										
授業科目名 <英訳>	インドネシア語I（初級）(語学) Indonesian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語専門学校　専任講師 柏村　彰夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	インドネシア語Ｉ(初級）										

[授業の概要・目的]

インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。

[到達目標]

日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。

[授業計画と内容]

基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。
なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。

1.イントロダクション
2.名詞文
3.発音と表記法
4.人称代名詞
5.基語動詞
6.ber-動詞
7.meN動詞
8.7回までの学習内容の確認
9.アスペクト、助数詞
10.疑問文、疑問詞
11.受動
12.時間表現
13.接尾辞 -an
14.接頭辞 pe-, peN-
15.前期学習内容の確認

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価100%
なお平常点評価には、語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。

インドネシア語I（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

インドネシア語I（初級）(語学)(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

（その他（オフィスアワー等））

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目64

科目ナンバリング	U-LET49 19611 LJ48										
授業科目名 <英訳>	インドネシア語II（初級）(語学) Indonesian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語専門学校　専任講師 柏村　彰夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	インドネシア語Ⅱ（初級）										

[授業の概要・目的]

インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。

[到達目標]

日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。

[授業計画と内容]

基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。
なお、授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。

1. 基本的表現の復習
2. 程度の副詞、接頭辞 se-
3. 比較級、最上級
4. 接頭辞 ter-
5. 前置詞
6. 接続詞
7. 関係詞 yang
8. 7回までの授業内容の確認
9. 接辞 peN-an、 per-an
10. 複合語、接辞 ke-an
11. 命令文
12. meN-kan動詞、meN-i 動詞
13. memper 動詞
14. 畳語
15. 後期の授業内容の確認

[履修要件]

インドネシア語　Ⅰ（初級）の履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点100%。
なお平常点には語彙小テスト（10回、各5点）の評価を含む。

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『教科書インドネシア語』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

インドネシア語II（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

インドネシア語II（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19626 LJ48										
授業科目名 <英訳>	タイ語I(初級）(語学) Thai					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 弓庭　育子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	初めてタイ語にふれる人のためのタイ語学習										

[授業の概要・目的]

臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。

[到達目標]

発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。
生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。

[授業計画と内容]

【学習方法】
講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。

【学習内容：会話】
１．オリエンテーション　学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認
２．発音練習　母音、声調、子音
３．第１課１．１～１．３　挨拶、国籍を紹介する、尋ねる
４．第１課１けたの数字、
５．第２課２．１～２．３　挨拶、名前を紹介する、尋ねる
６．第２課２．４～３けたの数字　挨拶、否定の表現
７．第３課３．１～３．３　職業を紹介する、尋ねる
８．第３課３．４～３．６　完了、予定の表現
９．第３課数字に関する表現
１０．第４課４．１～４．３　継続の表現
１１．第４課職業の表現
１２．第５課５．１～５．２　品詞と語順
１３．第５課５．３～親族名称　可能の表現
１４．総復習
１５．フィードバック

[履修要件]

効果的に語学を習得するため、履修期間中は①全講義に出席し、②テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

タイ語I(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

タイ語I(初級）(語学)(2)

[成績評価の方法・観点]

各課学習後の課題（およそ５００点）、総合の課題（およそ１００点）を合計し、１００点満点に換算して評価する。

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『世界の言語シリーズ９　タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-333-4 C3087
授業時間に参加できないときには、記録動画を後日閲覧して授業内容を理解すること。

[参考書等]

（参考書）
中島マリン著　赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。
復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19627 LJ48										
授業科目名 <英訳>	タイ語II(初級）(語学) Thai					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 弓庭　育子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	タイ語II(初級）										

[授業の概要・目的]

【学習目的】
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。

[到達目標]

発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。タイ文字の子音字、母音符号の組み合わせの基礎が身についている。

[授業計画と内容]

【学習方法】
会話：講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。

【学習内容：会話】
１．オリエンテーション　学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認
２．第６課６．１～６．２　指示代名詞
３．第６課６．３～６．４　程度の表現
４．第６課味覚表現
５．第７課７．１～７．２　希望、要求の表現
６．第７課７．３～７．５　許可の表現
７．第７課交通機関の名称
８．第８課８．１～８．２　指示形容詞
９．第８課８．３～８．４　義務の表現
１０．第８課時刻の表現
１１．第９課９．１～９．２　順序の表現
１２．第９課９．３～方向、方角の表現
１３．第１０課１０．１～１０．２　目的の表現
１４．総復習
１５．フィードバック

タイ語II(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

タイ語II(初級）(語学)(2)

[履修要件]

タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。
効果的に語学を習得するため、履修期間中は①全講義に出席し、②テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。

[成績評価の方法・観点]

講義中の小テスト（およそ５００点）、学期末テスト（およそ１００点）を合計し、１００点満点に換算して評価する。

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部　世界の言語シリーズ９　タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。
復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19631 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(語学) Burmese					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 本行　沙織				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ビルマ語入門										

[授業の概要・目的]

・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。
・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。
・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。

[到達目標]

ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　オリエンテーション
　　ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音
第２回　文字１（基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字）
第３回　文字２（軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序）
第４回　第１課　それはココヤシの実です
第５回　第２課　元気です
第６回　練習問題１、第３課　私は豚肉のおかずが好きではありません
第７回　第３課　私は豚肉のおかずが好きではありません、第４課　ご飯食べましたか？
第８回　第４課　ご飯食べましたか？、練習問題２
第９回　第５課　マンダレーに行きます
第10回　第６課　何の仕事をしているんですか？
第11回　練習問題３、第７課　十冊くらいあります
第12回　第７課　十冊くらいあります、第８課　シュエダゴン・パゴダに行きたいです
第13回　第８課　シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題４
第14回　第９課　電気製品を売っている店はありますか？
第15回　これまでの授業内容の復習

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業態度、小テスト(50点)、期末試験（50点）

ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(語学)(2)

[教科書]

加藤昌彦 『ニューエクスプレス ＋　ビルマ語』（ 白水社）ISBN:9784560088142

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。

・授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しんでください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19637 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ベトナム語I(初級）(語学) Vietnamese					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 吉本　康子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ベトナム語I(初級）										

[授業の概要・目的]

初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。

[到達目標]

・ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。
・挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。
・言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。

[授業計画と内容]

テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある

第１回　　ガイダンス
第２～４回　ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介
第５～６回　７課
第７～８回　８課
第９～10回　９課
第11～12回　10課
第13～14回　11課
第15回　　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点により評価する。

[教科書]

清水政明 『世界の言語シリーズ4　ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0
その他、授業中にプリントを配布する。

ベトナム語I(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ベトナム語I(初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

〈予習〉
・本文に目を通し、テキスト付属のＣＤ音声を聞く
〈復習〉
・ＣＤ音声を再生しながら、本文を音読する

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET49 19638 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ベトナム語II(初級）(語学) Vietnamese					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 吉本　康子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ベトナム語Ⅱ（初級）										

[授業の概要・目的]

ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介などの基本的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う

[到達目標]

・ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる
・現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をすることができる
・言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める

[授業計画と内容]

テキストに従って以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある

第１～２回　12課
第３～４回　13課
第５～６回　14課
第７～８回　15課
第９～10回　16課
第11～12回　17課
第13～14回　18課
第15回　　まとめ

[履修要件]

ベトナム語Ⅰを履修していることが望ましいが、ベトナム語の文字が読め、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話ができれば可とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点により評価する。

[教科書]

清水政明 『世界の言語シリーズ4　ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0
その他、授業中にプリントを配布する。

ベトナム語II(初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ベトナム語II(初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）
吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）
その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

〈予習〉
・本文に目を通し、テキスト付属のＣＤ音声を聞く
〈復習〉
・ＣＤ音声を再生しながら、本文を音読する

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET50 19822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	タイ研修 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣] 留学プログラム　タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール										

[授業の概要・目的]

「タイ研修」は、①京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、②事前学習、③事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくタイ語で表現できるようになることを目的としている。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。

具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるタイ・チュラーロンコーン大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するタイ語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。
(1)のタイ語講座では、チュラーロンコーン大学の教員による初学者向けのタイ語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)については日・英でおこなわれるチュラーロンコーン大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、タイの食文化、史跡見学、現代文化見学など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。

[到達目標]

・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるタイの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とタイ関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。
・また、同活動を通じて、日本文化（あるいは自分自身の身につけてきた文化）を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。
・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。
・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。
・タイ語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。

[授業計画と内容]

・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。
・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。

全体スケジュール（予定）
（１）8月中旬～9月上旬：事前語学授業(12時間程度）、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）
（２）9月上旬～9月下旬：短期留学プログラム（於、タイ・チュラーロンコーン大学）
プログラム内容（仮）
1日目日本発、タイ着

タイ研修(2)へ続く↓↓↓

タイ研修(2)

2日目
-09:00 - 12:00　キャンパスツアー
-13:00 - 16:00　講義「タイ国・タイ文化入門」
3日目
-09:00 - 12:00　タイ語授業
-13:00 - 16:00　タイ語授業
4日目
-09:00 - 12:00　授業受講「文化・文学」
-13:00 - 16:00　授業受講「歴史」
5日目
-09:00 - 12:00　実地見学（寺院訪問等）
6日目
-09:00 - 12:00　タイ語授業
-13:00 - 16:00　タイ語授業
7日目
実地見学（古都アユタヤ・伝統産業・現代文化等）
8日目日曜日
9日目
-09:30 - 12:30　授業受講「ビジネスコミュニケーション」
10日目
-09:00 - 12:00　講義「タイの歴史と文化」
-13:00 - 16:00　タイ語授業
11日目
-09:00 - 12:00　授業受講（予備日）
-13:00 - 15:00　共同セミナー準備
12日目
-09:30 - 12:30　共同セミナー
-13:00 - 16:00　タイ語授業
13日目
-09:00 - 11:00　発表会、修了式
14日目タイ発、日本着
（３）9月末　報告会（1.5時間、於、京都大学）

[履修要件]

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。タイ語初学者も歓迎するが、「タイ語Ｉ（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）による。
*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知@タイ」のシラバスを確認のこと。

タイ研修(3)へ続く↓↓↓

タイ研修(3)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/(京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）)

[授業外学修（予習・復習）等]

タイに関する文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

・チュラーロンコーン大学側プログラム実施責任者

チュラーロンコーン大学 文学部東洋言語学科 学科長 助教授、チョムナード・シティサーン

(Chomnard Setisarn, Head, Associate Professor, Faculty of Arts, Department of Eastern Languages, Chulalongkorn University

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET50 19822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	ベトナム研修 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣]留学プログラム　ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール										

[授業の概要・目的]

「ベトナム研修」は、①京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、②事前学習、③事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。

具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるベトナム国家大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するベトナム語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。

(1)のベトナム語講座では、初学者向けのベトナム語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)ベトナム国家大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、ベトナムの伝統村や史跡への実地研修をおこなう。

[到達目標]

・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるベトナムの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とベトナムとの関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。
・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。
・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。
・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。
・ベトナム語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。

[授業計画と内容]

・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。
・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。

全体スケジュール（予定）
（１）2月初旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度）、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）
（２）2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、ベトナム国家大学ハノイ校）
プログラム内容（仮）
1日目日本発、ベトナム着
2日目 2～6日目：ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学

ベトナム研修(2)へ続く↓↓↓

ベトナム研修(2)

-09:15-09:45　オリエンテーション
-09:50-11:40　講義「ベトナム地理」
-12:00-14:00　共同セミナー準備
3日目
-09:30-11:30　講義「日本語研究入門」
-14:00-16:00　ベトナム語授業
-16:15-18:15　共同セミナー準備
4日目
-09:30-11:30　講義「ベトナムの国家機関と法律」
-14:00-16:00　講義「ベトナムの大衆文化」
-16:15-18:15　共同セミナー準備
5日目
-09:30-11:30　ベトナム語授業
-12:45-14:30　実習（日本語教授研修）
-14:35-15:35　共同セミナーの準備
6日目
-10:00-16:30　実地研修（伝統村見学）
7日目土曜日
8日目日曜日
9〜13日目：ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学
9日目
-08:30-09:30　オリエンテーション及び共同セミナー準備
-09:50-11:40　ベトナム語授業
-14:45-15:45　共同セミナーの準備
10日目
-08:45-09:30　ベトナム語授業
-11:00-12:00　共同セミナーの準備
-13:00-14:35　ベトナム語授業
-14:45-16:30　実習（日本語会話：日本語教授研修）
11日目実地研修（6時間程度　詳細は後日）
12日目
-08:45-10:50　ベトナム語授業
-13:00-14:30　実習（日本語会話：日本語教授研修）
-14:45-16:15　ベトナム語授業
-16:30-17:30　共同セミナー準備
13日目
-9:30-11:30　共同セミナー、修了式
14日目ベトナム発、日本着
（３）3月下旬　報告会（1.5時間、於、京都大学）

[履修要件]

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。ベトナム語初学者も歓迎するが、「ベトナム語Ｉ（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

ベトナム研修(3)へ続く↓↓↓

ベトナム研修(3)

[成績評価の方法・観点]

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）による。
*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知@ベトナム」のシラバスを確認してください。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/(京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）)

[授業外学修（予習・復習）等]

ベトナムに関する文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

・ベトナム国家大学ハノイ校側プログラム実施責任者
ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学、日本言語文化学部・学部長、ダオ・ティ・ンガ・ミー
(Dao Thi Nga My, Dean, Faculty of Japanese Language and Culture, University of Languages and International Studies, Vietnam National University, Hanoi)
ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学、東洋学部日本学科・専任講師、プオン・トゥイ・グエン
(Phuong Thuy Nguyen, Lecturer, Department of Japanese Studies, Faculty of Oriental Studies, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University, Hanoi)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET50 19822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	インドネシア研修 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	多文化共学短期[派遣]留学プログラム　インドネシア大学スプリングスクール										

[授業の概要・目的]

「インドネシア研修」は、①京都大学が実施する「多文化共学短期[派遣]留学プログラム」と呼ばれる短期留学、②事前学習、③事後学習から成る授業である。本演習の目的は、多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶことを通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化をも捉え直す経験をし、それを日本語、英語、もしくは現地の言語で表現できるようになることである。これらのことは、将来にわたって国際活動を行うための基礎能力を養成することとなる。

具体的には、京都大学と大学間学生交流協定関係にあるインドネシア大学の協力を得て、(1)派遣先大学が提供するインドネシア語講座、(2)現地学生との共同セミナー・共同学習、(3)派遣先大学提供の講座受講・実習・実地研修・文化体験を行う。

(1)のインドネシア語講座では、初学者向けのインドネシア語講座を受講する。(2)の共同セミナーにおいては、両国の文化の比較や社会情勢について両大学の学生による合同発表をおこなう。また、(3)インドネシア大学の講義にも現地学生とともに参加する。文化体験においては、インドネシアの食文化、史跡見学、伝統楽器の演奏体験など、多角的に現地文化を体験する機会が提供される。

[到達目標]

・短期留学の経験並びに現地の学生と共に学び議論することを通じて、派遣先であるインドネシアの文化、社会、習慣への理解、さらには日本とインドネシアとの関係ひいてはアジア諸国についての理解を深める。
・また、同活動を通じて、日本文化あるいは自分自身が身につけてきた文化を相対化して客観的に捉えながら、それを相手に分かりやすく伝えられるようになる。
・現地で提供される講義、実地研修を通じて、文化、社会、習慣について多様なアプローチを理解する。
・現地学生を含む多様な文化的背景を持つ学生とコミュニケーションを図る意義を理解し、それを可能とする能力の基礎を習得する。
・インドネシア語の基礎を習得し、基礎的なやりとりができるようになる。

[授業計画と内容]

・当プログラムには別途申し込みをする必要があるため、申込方法などについて登録者に送られる案内、KULASIS等を参照すること。
・研修の詳細についてもKULASISで確認すること。

全体スケジュール（予定）
（１）2月上旬～2月中旬：事前語学授業(12時間程度）、共同セミナー発表準備講座（3時間程度）
（２）2月中旬～3月上旬：短期留学プログラム（於、インドネシア大学）
プログラム内容（仮）

インドネシア研修(2)へ続く↓↓↓

インドネシア研修(2)

1日目日本発、インドネシア着
2日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　キャンパスツアー
3日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　文化体験（伝統舞踊研修）
-16:30-18:30　共同セミナー準備
4日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　実習（日本語授業参加）
5日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:30-18:30　共同セミナー準備
6日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　文化体験（伝統工芸研修）
7日目
-09:00-18:00　課外研修（史跡訪問等）
8日目日曜日　休み
9日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-14:00-16:00　文化体験（伝統楽器・演奏研修）
-16:30-18:30　共同セミナー準備
10日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　講義受講「翻訳」
11日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　共同セミナー準備
12日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-16:00-18:00　共同セミナー準備
13日目
-09:00-10:40　インドネシア語授業
-11:00-12:40　インドネシア語授業
-13:15-18:00　共同セミナー
14日目インドネシア発、日本着
（３）3月下旬　報告会（1.5時間、於、京都大学）

インドネシア研修(3)へ続く↓↓↓

インドネシア研修(3)

[履修要件]

本スプリングスクール参加にあたって、全学共通科目「日本語・日本文化実習」を受講した上での参加を推奨している。インドネシア語初学者も歓迎するが、「インドネシア語Ｉ（初級）」等の関連科目を受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

事前学習への参加状況（15%）、派遣先大学における評価（60%）、帰国後の報告会および報告書（25%）による。
*全学共通科目として登録する場合は、別途「多文化教養演習：見・聞・知@インドネシア」のシラバスを確認してください。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.kuasu.cpier.kyoto-u.ac.jp/(京都大学アジア研究教育ユニット（KUASU）)

[授業外学修（予習・復習）等]

インドネシアに関する文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

・インドネシア大学側プログラム実施責任者
インドネシア大学 人文学部教授 日本プログラム所長 フィリア(Filia, Professor, Director of Japanese Studies Program, Faculty of Humanities, University of Indonesia)
インドネシア大学 人文学部講師 日本語プログラム ムハマッド・アリエ・アンディコ・アジエ (Muhammad Arie Andhiko Ajie, Lecturer, Japanese Studies Program, Faculty of Humanities, University of Indonesia)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET50 19822 LJ31										
授業科目名 <英訳>	戦争と植民地の歴史認識 Asian Studies (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小山　哲 文学研究科　教授　　谷川　穣				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	戦争と植民地をめぐる歴史認識問題										

[授業の概要・目的]

東アジアの日，中，韓・朝間での「歴史認識問題」を中心として，そこで焦点となっている過去の歴史についてより正確な事実を学び，また、関係する諸国や地域のあいだで歴史認識にどのような違いがあるかを多面的に考察するとともに，より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなる講義をオムニバス形式で提供します。

[到達目標]

いわゆる「歴史認識」とはどういうことかを理解したうえで、歴史学的に正確な事実を把握する能力を養う。

[授業計画と内容]

文学研究科，人文科学研究所，人間・環境学研究科の教員を中心に，現在日本，中国，韓国，北朝鮮などの東北アジア諸国の間で国際的な問題となっている，過去の戦争と植民地支配にかかわる「歴史認識問題」について講義します。また，東北アジア以外の地域における「歴史認識問題」についてもとりあげます。
講義担当者は以下のとおりです（講師の氏名の50音順による）。
日程については後日掲示します。なお、各講師の講義テーマについては、変更される可能性があります。

石川禎浩(人文科学研究所)：日中国交回復時（1972年）の歴史認識
伊藤憲二（文学研究科）：戦時期日本の核エネルギー研究――研究者はいかにして戦争に巻き込まれるか
太田　出（人間・環境学研究科）： 山西残留の首謀者・城野宏――その戦中と戦後を貫く信念
小野寺史郎（人間・環境学研究科）：近代中国における戦争/平和をめぐる歴史認識
小関　隆（人文科学研究所）：中立という選択肢――第二次大戦におけるアイルランドの経験から
小山　哲(文学研究科、コーディネーター)：収容所の世紀の記憶の語り方――ポーランド人によるソ連強制収容所体験記を読む
酒井朋子（人文科学研究所）：場所と身体の記憶――戦争と災害の遺跡と遺構
塩出浩之（文学研究科）：琉球／沖縄をめぐる歴史認識
谷川　穣(文学研究科、コーディネーター)：靖国神社について
直野章子（人文科学研究所）：越境する記憶――原爆投下をめぐって
中村唯史(文学研究科)： ロシアとソ連における民族の問題――「想像」と「実体」のあいだ
藤原辰史（人文科学研究所）：帝国日本の品種改良――種子と権力について考える
細見和之（人間・環境学研究科）：丹波篠山から考える、在日コリアンの足跡
吉井秀夫(文学研究科)：朝鮮総督府古蹟調査事業の評価をめぐって

フィードバック

戦争と植民地の歴史認識(2)へ続く↓↓↓

戦争と植民地の歴史認識(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（50%）とレポート（50%）により総合的に評価します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

関連する資料を講義担当者が指定した場合、予習しての出席、あるいは事後の自学をおこなっていることを前提に授業をすすめる。

（その他（オフィスアワー等））

専門知識が無くともわかりやすい講義を心がけますので，研究科や専修の枠にとらわれずに受講してください。
昨年度後期の「戦争と植民地をめぐる歴史認識問題」とかなりの講義が類似の内容なので、重複履修はできません。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目74

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (KBR) A Introduction-Focus I Seminar (KBR) A					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　VASUDEVA, Somdev				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Introduction to Indian Aesthetics										

[授業の概要・目的]

This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.

[到達目標]

Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.

[授業計画と内容]

Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.
Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?
Week 3 Bharata ’s Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts
Week 4 Early Development of the Rasa Theory
Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin
Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles
Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both
Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment
Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata
Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics
Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics
Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements
Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha
Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry
Week 15 Concluding Summary

[履修要件]

Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.

Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (KBR) A (2)

[成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%).One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

Introduced during class

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (SEG) A Introduction-Focus I Seminar (SEG) A					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Fieldwork and Qualitative Research of Japanese Society										

[授業の概要・目的]

This class will cover social research methods, mainly qualitative research. Because of the relaxed restrictions on movement under COVID-19, we also plan to conduct fieldwork.

Social research is a process and method of recognizing and understanding social phenomena by collecting data from the real world through observation, interviews, participation, questionnaires, etc., and then by analyzing, interpreting, and integrating the obtained data. Through social research, we become aware of why certain phenomena occur, the relationship between structure and agency, the gap between institutions and reality, how people think, and why they think the way they do, and finally, we believe that researchers approach social reality through research. Although there are many books on social research methods, this class will focus primarily on how to think about methodology rather than discussing methodology per se as a technical issue. In addition, since this class is mainly for the Joint Degree Master of Arts Program in Transcultural Studies, we will conduct fieldwork in Kyoto City and review previous academic works on Japanese social institutions.

About Japanese Social Institutions and Fieldwork
The main topics will be multiculturality and Buraku (historical outcast community). The fieldwork will take place in Higashikujo in Kyoto City, where Korean residents, newcomers to Japan, and other foreigners live. Outcast communities have been historically formed and are scattered throughout Kyoto City. Although they have already disappeared institutionally, the discrimination remains today and is considered important as a historical lesson. In this class, we will continue to learn about the historical background and current situation today through visits to archives and other facilities.

[到達目標]

To be able to conceptualize society through primary data gathering in Kyoto. This class requires field research within Kyoto to conceptualize Kyoto itself so that students can grasp Kyoto by collecting data and interpreting what is going on through field visit.

[授業計画と内容]

The organization of the course is as follows.
1. introduction
2. qualitative research (1)
3. qualitative research (2)
4. qualitative research (3)
5. multiculturality in Japan
6. field visit to a community
7. diversity in Kyoto (field visit to the migrant community)
8. beyond methodological dualism
9. reciprocity and qualitative research

Introduction-Focus I Seminar (SEG) A (2)へ続く↓↓↓

10. action research/Pandemic and qualitative research
11. field visit to public school/welfare facility
12. Students' presentation (1)
13. Students' presentation (2)
14. Students' presentation (3)
15. conclusion/feedback
schedule may change due to students' topics of interest

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%)

[教科書]

Corrigall-Brown, Catherine, 2020, Imagining Sociology: An Introduction with Readings, 2nd ed., Ontario: Oxford University Press Canada.
Marvasti, Amir, B., 2004, Qualitative Research in Sociology, London: Sage Publications.
Mirfakhraie, Amir, 2019, A Critical introduction to Sociology: Modernity, Colonialism, Nation-Building, Post-Modernity, Dubuque: Kendall Hunt Publishing Company.
Scheper-Hughes, Nancy, 1995,“The Primacy of the Ethical: Propositions for a Militant Anthropology,” Current Anthropology, 36(3): 409-440.
Scheper-Hughes, Nancy, 2009,“The Ethics of Engaged Ethnography: Applying a militant Anthropology in Organs-Trafficking Research,” Anthropology News: 13-14.
Francis, Nyamnjoh, B., 2015,“Beyond an evangelising public anthropology: science, theory and commitment,” Journal of Contemporary African Studies, 33 (1): 48- 63.

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

This course is also available for those who plan to write a paper without using qualitative research methods.

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
(@) indicates @

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (VMC) A Introduction-Focus I Seminar (VMC) A					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Play, Transcultural: Interdisciplinary Game Studies 101										

[授業の概要・目的]

Game analysis, game studies, or ludography exemplify different names and approaches to the growing field of research on games and gaming. Studying the meaning of playing digital and analog games and their complexity as (trans-) cultural artifacts asks for combining new and old research tools from the humanities and social sciences -- and more because gaming relates to many spheres of human activity. This practice-oriented and interactive seminar focuses on theoretical concepts and practical analytical techniques to engage transculturality in the cross-disciplinary research field of games.
The course engages questions of what makes a game, considering classics, such as Huizinga’s Homo Ludens and the often-misunderstood tool of the "magic circle" of play, taking cues from Wittgenstein’s family resemblance, and exploring the dynamic discourse of game design with Salen and Zimmerman’s Rules of Play. Primarily, we will deal with approaches to analyzing games as complex media artifacts that exist in being played. Thus, the course offers concrete step-by-step guidelines for researching the context, formal, narrative, and visual elements, and the interactive and immersive aspects of games. In this, we will also pay attention to community-building moments and border-crossing flows, questions of representation and appropriation.
The theoretical input and practical guidelines form the basis for practical exercises in applying these methodologies to concrete cases of the student’s choosing.
The course primarily addresses JDTS and MATS students of the VMC focus in their first semester but also welcomes students in their second year who are about to define their MA thesis topic. The course requires students to actively participate, do regular written homework and occasionally work in teams.

Study Focus: Visual, Media and Material Culture. Modules: Introduction to Transcultural Studies.

[到達目標]

The course seeks to establish an understanding of theories of transculturality, interactivity, immersion, and user agency and various angles of valuable methodology for the study of games and gaming. Building on key literature of game studies since Aarseth’s“Playing Research”and a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in developing a matching research design for studies sensitive to the interactive nature of games, and the role of actors and materials alike.
Students will apply key methodologies to contemporary case studies, such as qualitative visual and textual analysis of videogames, cyber-ethnography of gamers, or the analysis of the physical embodiment of fictional characters in live-action gaming. The course aims to assist students in taking the leap to a position of knowledge production and thus focuses on practical exercises and training in academic presentation skills.

[授業計画と内容]

The following general structure will guide the schedule of course sessions. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants, and will be announced in

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (2)へ続く↓↓↓

class.
(1) The first sessions introduce students to the history and discourse of game studies, actor, network, and practice theories and appropriate methods for studying gaming. [Weeks 1-5]
(2) The class decides on a shared question for project investigations, a specific game, and appropriate methods. As networks of humans and artifacts (media), games necessitate analyses of contents as well as "users." Accordingly, and if the number of participants permits, the class is divided into different project groups (e.g., context analysis, analysis of formal elements, participant observation in virtual worlds or in live-action games, cyber-ethnography of players), working on the same game from different angles (triangulation). [Weeks 6-10]
(3) Employing an e-learning environment (forums, journals), the groups plan and execute the projects under the instructor's supervision. Finally, the groups present results and discuss problems and achievements according to the overall study question. [Weeks 11-15]

The lectures, individual preparations (homework/feedback), and group projects will figure 1/3 of the course each.

[履修要件]

3rd year or above (3回生以降).

[成績評価の方法・観点]

All students: Homework (20%), project work, presentation and report (50%), feedback (10%), active participation (20%). For a full seminar (8 ECTS): A research paper (counting 30% of the overall grade).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.
The course takes some guiding ideas from Fernandez-Vara’s Introduction to Game Analysis, Salen and Zimmerman’s Rules of Play, and Boellstorf et al. Ethnography and Virtual Worlds. Reading their introduction/book is not mandatory but parts of these books may be obtained prior to the course by contacting the instructor.

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants need to prepare one reading before each in-class session and are asked to write short comprehension essays afterwards. During project phases, participants will conduct group work and submit meeting protocols afterwards. Preparation and review require at least one hour.

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (3)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (VMC) A (3)

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course PandA webpage will be available to download the course material.
Please contact the instructor Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	Introduction-Focus I Seminar (SEG) B Introduction-Focus I Seminar (SEG) B					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	その他	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Issues in Environmental History: Nature, Knowledge, Place, and Surroundings										

[授業の概要・目的]

When we conjure up "the environment" in our mind’s eye, what do we see? Perhaps we envision mountains, trees, streams, and waves--scenes where humans don’t appear or make only transient visits. Some of us could think about holistic linkages among all living creatures and their surroundings. Others among us may imagine how human societies have exploited and polluted relationships to non-human spaces. We might also "see" worldwide phenomena that are less obviously visible from a single vantage point, most notably climate change.

This course invites us to reflect upon the multiplicity of environments and environmental thinking around the world, at a moment defined by global-scale environmental crises and human impacts. Some questions are: How have ways of understanding the environment, sustainability, and nature emerged, interacted, and changed? Can we study the world through approaches that go beyond human perspectives alone?

[到達目標]

・The course will introduce you to the multi-stranded field of environmental history, which is animated by desires both to understand the past on its own terms and to bring the past to bear on present-day problems.

・The course will press us to think about how environmental ideas structure people’s everyday lives and inform their political priorities. We will consider these issues by looking closely at recent English-language research related to the Japanese archipelago and its environs. We will explore how concepts of nature, human artifice, resources, pollution, science, conservation, war, and food have functioned in Japan. By the same token, we will survey "more-than-human" approaches to understanding environments. We are lucky in this course to have a rich space in which to pursue these possibilities on the ground: Kyoto and its surroundings.

・By the end of the course, you will be prepared to conduct research related to environmental history from new points of view.

[授業計画と内容]

Week 1. Introduction

I. Approaches to Environmental History
Week 2. The Trouble with Wilderness
Week 3. Envirotech
Week 4. Climate History

II. Narrating Environmental Transformation
Week 5. Visualizing and Managing Land and Sea
Week 6. Changes in the Land
Week 7. Nature and Empire

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B(2)へ続く↓↓↓

Week 8. War
Week 9. The Archives of Environmental History

III. Environmentalisms
Week 10. Knowing Harm
Week 11. Conceptual Interlude 1
Week 12. Disaster
Week 13. Conceptual Interlude 2
Week 14. Environmentalisms

Week 15. Presentations and Feedback

(Please note that the precise topics and order are both subject to change.)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance, participation, and presentations in class (25%)
Short weekly reading responses (25%)
Final paper (50%)

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

At least one copy of the books should be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.
・Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B(3)へ続く↓↓↓

Introduction-Focus I Seminar (SEG) B(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK07 SE36										
授業科目名 <英訳>	Skills for Transcultural Studies I-English Skills for Transcultural Studies I-English					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Advanced skills for humanities research in English: reading, writing, and discussion										

[授業の概要・目的]

The goal of this course is to familiarize humanities-focused students with different genres of academic texts and to develop their abilities to express themselves to international audiences, both in writing and in speech. Simply put, by the end of the course students should be better able to participate in English-language research activities.

[到達目標]

Students will develop their analytical skills and their understanding of how to organize research findings effectively. Intensive reading and writing practice will acquaint them with the vocabulary, grammatical structures, and modes of expression characteristic to academic papers. Presentations and discussions will improve their ability to express opinions about complex academic topics in English.

Study Focus: all.
Modules: Skills in Transcultural Studies I.

[授業計画と内容]

The primary assignments will be two 5-7 page essays. For the first essay, students will be making a persuasive argument. For the second essay, students will be doing a close analysis of a text (or texts), chosen in consultation with the instructor, on a topic related to their research interests. There will be several steps before submitting each essay. First, in the leadup to each essay students will complete three shorter writing exercises. Second, students will read one (or more) essays by their classmates, then provide written and oral feedback.

The final project, preparations for which we will discuss throughout the course, is a 10- to 15-minute presentation on a topic related to students' research interests. Essay 2 will provide material around which students can structure their presentations.

1. Introduction
2. Reading and Summarizing
3. Sentences and Paragraphs
4. The Structure of Arguments
5. Using Sources and Plagiarism
6. Coherence, Cohesion, and Clarity
7. Usage Rules and Style Suggestions
8. Peer Review Session 1
9. Academic Genres and Conventions
10. Modes of Presentation
11. Introductions and Conclusions
12. Strategies for Editing and Revision

Skills for Transcultural Studies I-English(2)へ続く↓↓↓

13. Peer Review Session 2
14. Final Presentations
15. Discussing the Final Papers

Please note that the above content of the course is subject to change. A finalized plan will be determined based on student numbers and feedback.

[履修要件]

Evidence of advanced English skills (a TOEIC score of 700 or higher).

[成績評価の方法・観点]

Class Participation: 15%
Exercises: 20%
Essay 1: 20%
Essay 2: 25%
Final Presentation: 20%

[教科書]

使用しない
Reading materials will be provided as PDF files.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will have to read the assigned papers, book chapters, etc, before they are scheduled for class discussion. They are expected to prepare their presentations and essays on their own; assistance with the selection of topics will be offered when necessary.

（その他（オフィスアワー等））

Office hours: by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	U-LET36 3JK10 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　KNAUDT，Till				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	２０世紀日本技術社会史										

[授業の概要・目的]

特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。

[到達目標]

技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から歴史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回　現在の技術観
第3回～第4回　技術社会史の理論的基礎
第一部　帝国
第5回　鉄筋コンクリートと近代のアジア
第6回　情報通信と帝国
第7回　飛行機と戦争
第二部　戦後日本
第8回　鉄道と労働
第9回　家電と女性
第10回　車と家族
第三部　情報化社会の日本
第11回　エネルギーと環境
第12回　コンピュータと子供
第13回　ロボットと国民
第14回　まとめ
≪期末試験≫
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(SEG) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK10 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(SEG) Foundations I-Seminar(SEG)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	International Relations in the Early Modern East Asia: The Role of "Intermediaries"										

[授業の概要・目的]

Unlike modern diplomatic relations, which are based on direct negotiations by diplomats representing the two governments, one of the major characteristics of international relations in the early modern (seventeenth century to mid-nineteenth century) East Asia is the significant role played by intermediaries. These intermediaries include various personnel such as merchants, seamen, and priests, but the most important would be the "interpreters". The duties of interpreters in early modern East Asia were much more complex than their modern counterparts. Aside from being the linguistic intermediaries in communications, they also served as negotiators in diplomatic and commercial relations. This course will explore the specific ways in which international relations in the early modern East Asian region were maintained and managed through the role of interpreters and other intermediaries.

[到達目標]

Through this course, students will be able to (1) have a comprehensive knowledge of the historical background on international relations in the East Asian region, and (2) deepen their understanding of the contemporary East Asian region as well. Students will also (3) gain a new perspective on the relative nature of contemporary diplomacy and international relations.

[授業計画と内容]

In this lecture, we will first review the historical characteristics of the early modern East Asian region in light of the latest research in Japanese, Chinese and English languages. Next, we will take a detailed look at the role of intermediaries who operated between China (the Qing Dynasty), which was at the center of the early modern East Asian international order, and Japan, Korea, Ryukyu (present-day Okinawa Prefecture), and Western nations. Lastly, a holistic understanding of the intermediary system in early modern East Asia will be presented through comparative analysis.

1.Introduction
2.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(1)
3.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(2)
4.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (1)
5.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (2)
6.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (1)
7.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (2)
8.Intermediaries in the Sino-Korean relations (1)
9.Intermediaries in the Sino-Korean relations (2)
10.Intermediaries in the Sino-Western relations (1)
11.Intermediaries in the Sino-Western relations (2)
12.Intermediaries in the Japanese-Korean/Dutch relations
13. Comparative analysis of intermediary system
14.Final Presentation

Foundations I-Seminar(SEG) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(SEG) (2)

15.Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation in class - 25%
Final Paper and Presentation - 75%
(- Mid-term progress report - 20%)
(- Presentation of the Final Paper - 25%)
(- Final Paper - 30%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to actively prepare for the final paper, the progress of which will be checked in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授 ROTH, Martin Erwin				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	批判的ゲームスタディーズの基礎理論										

[授業の概要・目的]

近年大きく発展してきたデジタルゲームは、文化産業、軍事産業、コンピュータによる生の管理、そしてプラットフォーム資本主義と深く結びついている。本講義では、このようなゲームを批判的に捉えてきたゲームスタディーズの理論的展開を軸に、現代ゲーム文化を考察・検討する。

[到達目標]

デジタルゲームを批判的に捉える意義を理解し、各理論を自信でゲームやデジタルメディアに適用しながら、現代のメディア環境を考察できるようになる。

[授業計画と内容]

1. 批判とは何か：フランクフルト学派を背景に
2. 遊びの概念I
3. 遊びの概念II
4. デジタルプレイのグローバル化
5. ゲームと帝国
6. 表現力 I：機械
7. 表現力 II： ルール
8. 表現力 III： 逸脱
9. 表象I：コンテンツを考える
10. 表象II： ジェンダーとレース
11. 表象III：解釈
12. ゲーミフィケーション
13. メタゲーミング、遊び心
14. 総合討論

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績評点は６段階。
討論への積極的な参加（３０％）、レポート（１回、７０％）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回のテキストを通読して準備すること

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目82

科目ナンバリング	U-LET36 3JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	広島大学人間社会科学研究科 准教授 KITSNIK Lauri				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Coffee Culture in Modern and Contemporary Japan										

[授業の概要・目的]

When did coffee first arrive in Japan, often thought of as a country of tea? What was its initial reception and on which grounds was it domesticated? What are the patterns of coffee production and consumption in Japan, and how do these relate to global networks and trends? What are the brewing techniques and flavours that characterise coffee in Japan? How is coffee related to the everyday of urban spaces, technological innovations, and cultural change? These are some of the questions this course hopes to address by looking at the history and development of coffee culture in Japan during the past century and a half. For the class, we will be reading excerpts from several recent English-language studies; a number of research trips to coffee shops around Kyoto form an integral part of the course.

[到達目標]

The students will 1) gain knowledge on the historical development of production and consumption of coffee in modern and contemporary Japan; 2) learn to relate the above developments to the ones taking place within a global context; 3) become familiar with approaches for studying coffee culture with an opportunity to apply these on their own future research projects; 4) acquire skills for historical and comparative analysis; 5) extend their abilities to summarise past scholarship in oral presentation, and communicate their own original arguments in classroom discussion and writing; 6) savour the varieties of coffee currently available in Kyoto.

[授業計画と内容]

1. Introduction
2. Seminar
3. Seminar
4. Research trip
5. Seminar
6. Research trip
7. Seminar
8. Research trip
9. Seminar
10. Seminar
11. Research trip
12. Seminar
13. Research trip
14. Seminar
15. Seminar

Foundations I-Seminar(VMC)(2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Individual presentation (40%), participation in classroom discussion (40%), final essay (20%)

[教科書]

Merry White 『Coffee Life in Japan』（California UP, 2012）
Catherine M. Tucker 『Coffee Culture: Local Experiences, Global Connections, 2nd ed.』（Routledge, 2017）

Helena Grinshpun 『Global Coffee and Cultural Change in Modern Japan』（Routledge, 2022）

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

Read the assigned textbook during the course

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK11 LE36										
授業科目名 <英訳>	Foundations I-Seminar(VMC) Foundations I-Seminar(VMC)					担当者所属・職名・氏名	創価大学文学部　講師 森下　達				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	初期手塚治虫作品を論じる――「物語」と「表現」の絡み合いを軸に――										

[授業の概要・目的]

戦後日本のマンガは、表現様式の点で戦前・戦中期のそれを大きく更新し、さまざまな物語を描きうる表現領域として確立していった。本授業では、戦後日本を代表するマンガ家・手塚治虫の1940年代後半から50年代の作品を精読することを通じて、作品を支える表現様式がどのように変容しているのかを確認し、さらに、その変容が物語内容の変化といかに関係しているのかを分析していく。分析にあたっては、児童文学や近代文学、映画といった既存の物語メディアから、マンガが何を取りこんでいったのかにも焦点をあてる。このような作業を通じて、マンガ表現自体を問題にする方法論を身につけるとともに、他の表現メディアとの比較など柔軟な姿勢と視野の広さを獲得することが本授業の目的である。

[到達目標]

前近代の文化や、近代以降の文学およびヴィジュアル文化などとも対比する形で、自分なりの視点で現代のマンガ文化を論じられるようになることが本授業の到達目標である。近代の物語文化に対する理解を深めるとともに、物語と表現の関係に目を向ける力を獲得することは、マンガだけでなくほかのさまざまな表現文化を論じる際にも効力を発揮するだろう。

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス：手塚治虫を論じる視点
第2回　手塚治虫『地底国の怪人』（1）：何が新しかったのか
第3回　手塚治虫『地底国の怪人』（2）：戦前・戦中期の作品と比較して
第4回　手塚治虫『地底国の怪人』（3）：物語の構造を考える
第5回　手塚治虫『メトロポリス』（1）：主題の深化
第6回　手塚治虫『メトロポリス』（2）：表現様式の安定
第7回　手塚治虫『メトロポリス』（3）：その後の作品との関係
第8回　手塚治虫『38度線上の怪物』（1）：リメイクを論じるには
第9回　手塚治虫『38度線上の怪物』（2）：他の表現メディアの影響
第10回　手塚治虫『38度線上の怪物』（3）：マンガでドラマを描くということ
第11回　手塚治虫『罪と罰』（1）：「映画」的手法を考える
第12回　手塚治虫『罪と罰』（2）：モンタージュと「内面」表現
第13回　手塚治虫『罪と罰』（3）：原作との変更点について
第14回　ボーナストラック：つげ義春「ある一夜」を手塚作品と比較する
第15回　まとめ：マンガにおける「物語」と「表現」
※受講生の興味関心に応じ、授業内容を多少変更する場合がある。

Foundations I-Seminar(VMC) (2)へ続く↓↓↓

Foundations I-Seminar(VMC) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（60%。授業の視点を踏まえて、自分なりにマンガ作品を論じるもの。問いを提示し、適切な根拠を揃えてそれに答えを出すことを求める）、毎回の授業への参加（40%。授業内容を理解し、積極的に発言できているかどうかをもとに判断する）をもとに評価します。

[教科書]

レジュメを作成、配布します。
また、版は問いませんが、授業で扱うマンガは読了した上で授業に臨んでもらいたいと考えています。取り扱う作品は以下のとおり。
・手塚治虫『地底国の怪人』（1948年）
・手塚治虫『メトロポリス』（1949年）
・手塚治虫『38度線上の怪物』（1953年）
・手塚治虫『罪と罰』（1953年）
・つげ義春「ある一夜」（1958年）
なお、手塚作品に関しては講談社の「手塚治虫文庫全集」が、つげ作品に関しては筑摩書房の「つげ義春コレクション」（「ある一夜」は『四つの犯罪／七つの墓場』所収）か「つげ義春大全」（「ある一夜」は『第4巻　ゆうれい船長／不思議な手紙』所収）が入手しやすいです。

[参考書等]

（参考書）
森下達 『ストーリー・マンガとは何か　手塚治虫と戦後マンガの「物語」』（青土社、2021年）
ISBN:978-4-7917-7416-6（授業内容のもととなる書籍です。）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：配布されたプリントやテキストなどについて、授業で指示されたぶんをきちんと読んでくること。わからない箇所等についてはそのままにせず、自身で調べて授業に臨む。内容についても、漫然と読むのではなく、自分がどう読んだのかをきちんと言葉にする準備をしておくこと。（60分）

復習：授業での学びを踏まえて、扱った作品を今一度読み直し、自身の読みを深めること。（30分）

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　海田　大輔				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Contemporary Japanese Philosophy (Post-Wolrd War II Japanese Philosophy)										

[授業の概要・目的]

****
IMPORTANT: At least during October, this class will be offered in an online or hybrid format. Please check “ Class support ” or PandA for detailed information.
注意：少なくとも10月中に本科目はオンライン・ハイブリッド形式で提供される予定です。詳しくは「授業サポート」またはPandAをご確認ください。
****

This course explores various aspects of contemporary Japanese philosophy (Post-World War II Japanese philosophy) by reading Japanese primary sources in English translation, and discussing them in English. Participants will read and discuss papers by:
OMORI Shozo (**大森荘蔵**), KIMURA Bin (**木村敏**), HIROMATSU Wataru (**廣松渉**) and SAKABE Megumi (**坂部恵**).

[到達目標]

By the end of the term students will gain some basic understanding of contemporary philosophy in Japan.

[授業計画と内容]

1 Introduction
2-4 OMORI Shozo "An Essay on Kotodama: Words and 'Things'"
5-8 KIMURA Bin "Time as the Between"
9-11 HIROMATSU Wataru "Articulation Forms of the World of Fact-Things"
12-14 SAKABE Megumi "Appearance and Copula"
15 Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

At the end of the term students will be asked to write a paper. Students' grades will be weighed according to the following scheme:
Active participation in discussion 40%
Term paper 60%

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

[教科書]

使用しない
The reading materials will be uploaded on KULASIS.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be asked to read the materials for the class in advance and come prepared to discuss them.
Every student will be expected to raise at least one point that he or she thinks is worth discussing in a class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	U-LET36 3JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　川島　隆				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Heidi in Japan										

[授業の概要・目的]

In this class, we will discuss the story of “ Heidi ” (1880/81) by Johanna Spyri from the perspective of comparative literature. It is one of the main tasks of comparative literature to think about the reception of one literary work in various countries and regions, because it is important to know what has remained the same and what has changed in the course of translation and adaptation of the original work. Usually, these changes do not come from pure chance but from the essential differences of cultures. So, when we think about the transcultural transformations of a literary work, we at the same time (re-)think about the culture in which we are living. In this sense, the story of “ Heidi ” is a very productive example because it has a lot to tell us about our cultures.

[到達目標]

Students will on the one hand gain basic knowledge about the reception of “ Heidi ” in Japan, and on the other hand understand the importance of interaction between cultures which sometimes borders on cultural appropriation.

[授業計画と内容]

(1) Introduction
(2) Biographical facts about Johanna Spyri
(3) Spyri ’ s “ Heidi ’ s Years of Learning and Wandering ” (1880) in its cultural contexts
(4) Spyri ’ s “ Heidi Can Use What She Learned ” (1881) in its cultural contexts
(5) Excursus 1: Charles Tritten ’ s French “ Heidi ” -sequels
(6) The first Japanese translation by Yaeko Nogami (1920) and other early translations
(7) “ Heidi ” in girls ’ magazines in Pre-War Japan
(8) “ Heidi ” in children ’ s magazines in Post-War Japan
(9) The animation series “ Heidi, Girl of the Alps ” by Isao Takahata (1974)
(10) The reception of Takahata ’ s animation in Europe
(11) Excursus 2: “ Heidi ” -movies in the world
(12-14) Presentations by students
(15) Conclusion

[履修要件]

Completion of modules “ Introduction to Transcultural Studies, ” “ Skills for Transcultural Studies, ” “ Focus 1 ” and “ Focus 2 ”

[成績評価の方法・観点]

Homework (30%), participation (30%), final report (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS).

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)(2)

Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.cats.bun.kyoto-u.ac.jp/

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to read texts uploaded in the CATS websites at home before they attend each class.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目86

科目ナンバリング	U-LET36 3JK15 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　助教　Campbell, Michael				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	The Philosophy of Peter Winch										

[授業の概要・目的]

Peter Winch (1926 - 1997) was one of the most important British philosophers of the post-War period. He was known for his contributions to the philosophy of social science, Wittgenstein scholarship, ethics, political philosophy, and the philosophy of religion. His work includes On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy (Routledge, 1958), Simone Weil: The Just Balance (Cambridge University Press, 1989) and numerous articles, the most important of which were reprinted in his collections Ethics and Action (Routledge, 1972) and Trying to Make Sense (Basil Blackwell, 1987).

In this course students will be introduced to Peter Winch's work through considering a range of his most famous articles. Topics covered include the justification of political authority; the nature of doubt and certainty; and what it means to understand another person or culture.

Through participating in this course, students will get an insight into the thought of one of the leading philosophers in the 20th Century, as well as an improved understanding of issues in classical and contemporary philosophy.

[到達目標]

To introduce students to the work of one of the 20th Century’s most important philosophers.

To familiarise students with some of the aims, methods and problems of both classical and contemporary political philosophy.

To develop a deepened understanding of certain perennial philosophical questions concerning skepticism, justification and understanding.

To develop students' ability to reason critically, to construct and critique arguments and to write philosophical essays in English.

[授業計画と内容]

Weeks 1-2: Introduction
Course requirements and historical background - the Swansea School, overview of British post-War moral philosophy.

Weeks 3 - 6: Understanding and Explanation
What is it to understand social phenomena? What kinds of generalisations can the social sciences aim at? How do the generalisations of sociology and anthropology relate to everyday understanding of other people?

Weeks 7-10: Doubt and Certainty

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Lecture) (2)

Is philosophical skepticism about our understanding of the lives of others justified? What constitutes a philosophical refutation of skepticism? How do skeptical problems relate to our understanding of practical difficulties we may encounter in our ordinary lives?

Weeks 11-14: Political Authority
How does political authority structure daily life, and how does it relate to other sources of authority? What justifies political authority?

Week 15: Recap

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Students will be evaluated by a midterm paper (40%) and a final paper (60%), which will be graded out of 100. Papers must be written in English and be approximately 1000 words long.

[教科書]

Students will be distributed copies of Winch's relevant papers, as well as relevant secondary literature. Important background reading is Peter Winch's On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy (ISBN: 978-0415423588), and students may if they wish consider purchasing their own copy of this book. It is also available in Japanese translation.

[参考書等]

（参考書）
Peter Winch 『Ethics and Action』（Routledge, 2022）ISBN:9780367507541
Peter Winch 『On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy』（Routledge, 2008）ISBN: 9780415423588
Peter Winch 『Trying to Make Sense』（Basil Blackwell, 1987）ISBN:9780631153368

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes or writing exercises to test students comprehension of the material.

（その他（オフィスアワー等））

Communication will be via email and PandA. Office hours of the instructor will be available on KULASIS.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目87

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　南谷　奉良				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Pain Culture and Pain Literature										

[授業の概要・目的]

Through the reading of Joanna Bourke's The Story of pain: from Prayer to Painkillers (2014) and stories about painful experiences, this course explores a wide range of issues related to physical and psychological pain, which will allow students to consider the multifaceted nature of pain and how its definition, understanding, and cultural significance vary across geographical and socio-political contexts.

[到達目標]

This course examines the historical imposition and endurance of pain in humans and animals, as well as the various ways it has been comprehended, conveyed, and depicted. It also investigates the diverse types of pain and their meanings and functions in the lives of humans and animals. Through English-language literature, art, film, journalism, essays, reviews, and music, students will have the opportunity to engage with and articulate the subjective experience of pain and gain a more nuanced appreciation of its intricate and inexpressible nature.

[授業計画と内容]

Course Outline

1. Introduction (pp.1-27)
2. Estrangement (pp.27-53)
3. Metaphor (pp.54-72
4. Metaphor (pp.73-87)
5. Religion (pp.88-100)
5. Religion (pp.101-130)
6. Diagnosis (pp.131-145)
7. Diagnosis (pp.146-158)
8. Gesture (pp.159-175)
9. Gesture (pp.175-191)
10. Sentience (pp.192-210)
11 Sentience (pp.211-230)
12. Sympathy (pp.231-250)
12 Sympathy (pp.251-269)
13. Pain Relief(pp.270-290)
14. Pain Relief (pp.291-302)
15. Feedback

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR)(Colloquim) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

At the end of the term students will be asked to write a term paper. Students'grades will be weighed according to the following scheme:

Active participation in discussion＋Reaction Paper 60%
Term paper 40%

[教科書]

Joanna Bourke 『The Story of Pain: From Prayer To Painkillers』（Oxford UP, 2014）ISBN:978-0199689439（https://www.amazon.com/Story-Pain-Prayer-Painkillers/dp/0199689431）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students will be asked to read the materials for the class in advance and prepare to discuss them. Every student will be expected to comment on each topic.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　安里　和晃				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Welfare Regime and Cross-Border Migration in Asia: labor, marriage and evacuation										

[授業の概要・目的]

This course will discuss how welfare regimes intertwine with migration regimes in the process of rapid economic development and demographic change in Asian countries. One of the features of the Asian economic miracle was not only utilizing the demographic dividend and high educational attainment of its labor force but also accepting migrants, and domestic workers, in particular, to facilitate the participation of local women in the labor market. From the social policy side, liberal familialism in Asian countries justified the maintenance of “family value” and the commercialization and externalization of reproductive work by recruiting foreign domestic workers as extra family members. Sometimes this familialism triggered cross-border marriage for the formation of family welfare, which became the foundation of multiculturalism in some societies. In the process of demographic ageing, some Asian countries borrowed institutional frameworks of welfare states in Europe such as Korea, Japan, and Taiwan. Therefore, the divergence of the welfare regime of Asian countries is observed.

[到達目標]

Students will receive basic instruction on welfare policy, migration policy and related policies in Asian countries and will understand how these institutional frameworks operate and their impact on individuals and society.

[授業計画と内容]

A detailed plan for each class may be changed depending on the participants.
The contents of the course include the following classes.

1. Economic development in Asia and population dynamics
2. Overview of East Asian migration policy
3. Internalization/externalization of care and migration
4. Entertainment and marriage migration
5. Ageing, welfare policy, and migration
6. Feminization of migration: sex, care and family
7. Welfare Regime / Familialism
8. Social integration/multicultural policy
9. Labor migration and exploitation
10. Global politics of sending strategy
11. International labor market formation
12. Migration regime: (non)binary of temporariness and permanency
13. Action and research in migration study
14. Pandemic, access to welfare, and immigration policy
15. Conclusion

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

reflection papers(50%) and term paper(50%).

[教科書]

授業中に指示する

Papers and related documents will be distributed in class.

[参考書等]

（参考書）

Goodheart, David, 2017, The Road to Somewhere: The Populist Revolt and the Future of Politics, London: Hurst & Co.

Hundt, David and Uttam Jitendra, 2017, Varieties of Capitalism in Asia: Beyond the Developmental State, London: Mcmillan Publishers.

Kim, Mason M.S., 2015, Comparative Welfare Capitalism in East Asia: Productivist Models of Social Policy, London: Macmillan Publishers.

Lan, Pei-Cha, 2006, Global Cinderellas: Migrant Domestics and New Rich Employers in Taiwan, Durhan and London: Duke University Press.

Parrenas, Rhacel, S., 2001, Servants of Globalization: Women, Migration, and Domestic Work, Stanford: Stanford University Press.

Steger, Manfred B., 2014,“Approaches to the study of globalization,” Steger Mandred, Paul Battersby and Joseph Siracusa, eds., The SAGE Handbook of Globalization, London: Sage Publications Inc., 7-22.

[授業外学修（予習・復習）等]

Participants may be required to read papers related to the class

（その他（オフィスアワー等））

Please make an appointment through the email below.
asato.wako.4c(@)kyoto-u.ac.jp
(@) indicates @.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本の左翼のグローバルヒストリー										

[授業の概要・目的]

日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。

[到達目標]

グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から社会運動・思想史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　オリエンテーション
第２回　「レフト」というのは何か
第３回　ヨーロッパの資本主義と社会主義
第４回　ロシアの帝国と日本のアナキスト
第５回　帝大セツルメント
第６回　インターナショナルと日本の共産主義
第７回　帝国とレフト
第８回　脱植民地化と戦後のレフト
第９回　女性労働運動
第１０回　国鉄労働組
第１１回　べ平連
第１２回　１９６８の第三世界反帝国主義
第１３回　日本のヒッピーとカリフォルニア
第１４回　まとめ
≪期末試験≫
第１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	教育学研究科 教授　　佐野　真由子				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Japan's early diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate										

[授業の概要・目的]

This course aims to explore Japanese diplomacy during the last decade of the Tokugawa Shogunate, through in-depth readings of documents (such as memoirs, diaries, and diplomatic correspondences) written by people who worked on the ground during that time.

In the course of 2023, we will encounter Rutherford Alcock (1809-1897), the first British Minister to Japan, who arrived in the country in 1859 and apparently played a pioneering role as a diplomat in the region. He eventually found himself a lover of Japanese art.

Large part of the course will be dedicated to looking into his own writings, in combination with some other sources when necessary. Students are not only expected to learn the Japanese history of the time, but to critically discuss the diplomat's conducts in a culture different from his own.

[到達目標]

Students will have apprehended the transcultural nature of Japan's path in the late 19th century. It is also aimed to familiarize the students with historical studies through carefully following an individual's experiences.

Furthermore, it is an important objective of the course to critically discuss people's conducts and development of their life in the forefront of facing a different culture.

[授業計画と内容]

Week 1:
Introduction

Week 2-13:
Discussions on experiences of Rutherford Alcock mainly through his representative work "The capital of the tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan" (1863), in combination with some other sources when necessary.
Classes will consist of:
- Students' presentations on assigned readings (mainly from the above-mentioned book);
- Discussions and further analyses in class; and
- Introduction to additional sources and reading materials.

Note: The schedule and more concrete contents of each week will be considered most appropriately depending on the number of participants, their knowledge of the Japanese language as well as history, and other related conditions.

Week 14-15:
Final presentations and discussions (feedback) on the students' plans for their final papers.

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

[履修要件]

Each student will be assigned in-depth readings and related research about a particular part of Alcock's writings and will give at least two oral presentations (mid-term and final) during the course. All students are expected to have read the part to be covered in each class, if not personally assigned, and to actively participate in discussions.

[成績評価の方法・観点]

Evaluation criteria:
1) Contribution to discussions in class: 20%
2) Oral presentations (each with an outline of several pages to be shared with all participants): 30%
2) Term paper (3,000-4,000 words): 50%

[教科書]

Rutherford Alcock 『The capital of the tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan (2 vols.)』（London: Longman, Green, Longman, Roberts & Green, 1863）（ Students may use the e-book version (New York: Harper & Brothers, 1863, in "Nineteenth Century Collections Online") via KULINE.）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

See [Class requirement].

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

学部共通科目91

科目ナンバリング	U-LET36 3JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 教授　　河合　淳子				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	SocSci Research Methods in Education										

[授業の概要・目的]

This course will examine various approaches and topics in the study of Japanese education, culture and society through reading sociological works on Japan. Education is a complex subject partly because everyone, having been educated, has a personal view about what education should be and should not be. However, generalizing from one's own experience can be dangerous. This is one of the reasons why sociological perspectives become important in the field of education.

Students will also learn the nature, purposes and methods of social science research in the field of education and each students will experience a small-scale research project to explore practical aspects of what students have learnt in class. Students will have opportunities to take a close look at what is happening and what has happened in Japanese education.

[到達目標]

・To understand sociological perspectives in education and the importance of social science research in education
・To gain knowledge of various research methods and to experience one of them
・To develop interests to participate in cooperative projects with members from various cultural background.
・To enable students to sharpen their skills in critical analysis through structured reading, discussion, written assignments and small scale research project.

[授業計画と内容]

1. Sociological perspectives on education (Week 1)
What do we know about education of our own? Do we really know about it?

2. The nature and purposes of social research in the field of education　(Week 2-3)
2-1: Education from Social science perspectives (Week 2)
2-2: Placing a case into historical and/or broader social contexts
-Connecting a “ big data ” with a “ case study ” and vice versa (Week 3)

3. Investigation on Japanese education (Week 4-7)
3-0: Overview (Week 4)
3-1: Condition of language education in Japan - Why do reforms return again and again? (Week 5)
3-2: Transition from schools to work - Introduction of various approaches- Functionalist approach, Conflict theorist approach, and Micro-interactionism 3-3: Futoko (Truancy, Non-attendance) - Discourse analysis of educational problems (Week 6)
3-4: Life of adolescences - Roles of Japanese school clubs, functions and culture of cram schools, teacherstudent relationship, relationship between schools and families. (Week 7)

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Topics of Weeks 5,6 and 7 are subject to change based on participants’ interests.

4. Research Planning: What are your research questions? (Week 8)

5. Lecture: Introduction to Research Methods (Week 9-12)
5-1: Modes of Inquiry- Quantitative Modes of Inquiry and Qualitative Modes of Inquiry
5-2: Sampling Techniques
5-3: Data Collection Techniques (1) Questionnaire (2) Observation (3) Interview
5-4: Interpretations of Data

6. Ethical issue in social research (Week 13)

7. Presentation on your project (Week 14)

Feedback （Week 15）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Participation to the group project and class activities (30%), short reports(30%), and Final report(40%). 授業への参加（３０%）、課題レポート（３０%）、期末レポート（４０%）で評価する。

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

Grading for JDTS/MATS full seminar students.
The grading policy for JDTS/MATS full seminar students are same as above. Details are as follows.
・Short reports 1 and 2 (30%)
・Report 3 (40%)
・Class Participation (30%)

Grading for JDTS/MATS reduced seminar students
・Short reports 1 and 2 (40%)
・Final presentation handout (20%)
・Class Participation (40%)

Class participation includes i) Presentations (one short introductory presentation (5min.) of your topic and a final presentation), ii)Introducing assigned readings,and iii)Participation in discussions and activities in regular classes.

[教科書]

授業中に指示する
プリント配布
Handouts will be distributed.

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(3)

[参考書等]

（参考書）

Fukuzawa, Rebecca E. and LeTendre, Gerald. 『Intense Years: How Japanese Adolescents Balance School, Family, and Friends』（Taylor and Francis,2001）

Rohlen, Thomas and LeTendre, Gerald (eds.) 『Teaching and Learning in Japan』（Cambridge University Press, 1998）

McMillan, James H. and Schumacher, Sally 『Research in Education; A Conceptual Introduction, 5th edition』（Addison Wesley Longman, Inc., 2001）

Weiss, Robert S. 『Leaning from Strangers: The Art and Method of Qualitative Interview Studies』（The Free Press, 1994）

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions in each week. ・Students are expected to actively participate in preparations for the small-scale group project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hour by appointment ・We will conduct a small-scale group (or individual) research project in the latter half of the course. Transportation fee, if necessary, should be covered by students. Enroll in Personal Accident Insurance for Students while Pursuing Education and Research.

講義後半には小グループまたは個人で簡単な実地調査に取り組む。旅費（交通費）が必要な場合、原則として 受講生の負担となります。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目92

科目ナンバリング	U-LET36 3JK17 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	学際融合教育研究推進センター 特定助教 張　子康				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	International Relations in the Early Modern East Asia: The Role of "Intermediaries"										

[授業の概要・目的]

Unlike modern diplomatic relations, which are based on direct negotiations by diplomats representing the two governments, one of the major characteristics of international relations in the early modern (seventeenth century to mid-nineteenth century) East Asia is the significant role played by intermediaries. These intermediaries include various personnel such as merchants, seamen, and priests, but the most important would be the "interpreters". The duties of interpreters in early modern East Asia were much more complex than their modern counterparts. Aside from being the linguistic intermediaries in communications, they also served as negotiators in diplomatic and commercial relations. This course will explore the specific ways in which international relations in the early modern East Asian region were maintained and managed through the role of interpreters and other intermediaries.

[到達目標]

Through this course, students will be able to (1) have a comprehensive knowledge of the historical background on international relations in the East Asian region, and (2) deepen their understanding of the contemporary East Asian region as well. Students will also (3) gain a new perspective on the relative nature of contemporary diplomacy and international relations.

[授業計画と内容]

In this lecture, we will first review the historical characteristics of the early modern East Asian region in light of the latest research in Japanese, Chinese and English languages. Next, we will take a detailed look at the role of intermediaries who operated between China (the Qing Dynasty), which was at the center of the early modern East Asian international order, and Japan, Korea, Ryukyu (present-day Okinawa Prefecture), and Western nations. Lastly, a holistic understanding of the intermediary system in early modern East Asia will be presented through comparative analysis.

1.Introduction
2.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(1)
3.Overview on the political, economic and social characteristics of the early modern East Asia(2)
4.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (1)
5.Intermediaries in the Sino-Japanese relations (2)
6.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (1)
7.Intermediaries in the Sino-Ryukyuan relations (2)
8.Intermediaries in the Sino-Korean relations (1)
9.Intermediaries in the Sino-Korean relations (2)
10.Intermediaries in the Sino-Western relations (1)
11.Intermediaries in the Sino-Western relations (2)
12.Intermediaries in the Japanese-Korean/Dutch relations
13. Comparative analysis of intermediary system
14.Final Presentation

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG)(Lecture)(2)

15.Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation in class - 25%
Final Paper and Presentation - 75%
(- Mid-term progress report - 20%)
(- Presentation of the Final Paper - 25%)
(- Final Paper - 30%)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Students are expected to actively prepare for the final paper, the progress of which will be checked in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛 文学研究科 特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Topics in Modern East Asian History										

[授業の概要・目的]

This course explores Modern East Asian History from transcultural perspectives.
From Session 1 to Session 10: The first section will introduce the history of science and technology in 20th century East Asia.
From Session 11 to Session 14: We will discuss various aspects of the South China Sea in the 19th century.

[到達目標]

Students will be able to:
-get a sense of major issues and new approaches to the study of science, technology, and society in East Asia.
-further understand society and economy of Modern China from the perspective of maritime history.

[授業計画と内容]

Weeks 1-10（Ericson)
1. Introduction: Science and Technology in 20th-Century East Asia
2. Rethinking "Modern" and "Scientific" Knowledges
3. Spaces and Agents of Encounter I
4. Spaces and Agents of Encounter II
5. Everyday Technologies
6. Infrastructure
7. Mid-20th-Century Developmentalisms
8. Revolutions: Red, Green, and Blue
9. Risk, Disaster, and Citizen Science
10. Pandemics as History and Concluding Themes

Weeks 11-14（Murakami)
11. Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War
12. "Traitors" and the Qing Government's Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during the First Opium War
13. The End of the Coolie Trade in Southern China
14. Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy

Week 15 Feedback

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Active participation (30%), short essays (30%), and final essay (40%).
To JDTS/MATS students: This course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Hiromi Mizuno, Aaron S. Moore, John Dimoia, eds. 『Engineering Asia: Technology, Colonial Development, and the Cold War Order』（Bloomsbury）
Shellen Wu 『China: How Science Made a Superpower』（Nature (October 2019)）
Eiko Maruko Siniawer 『Waste: Consuming Postwar Japan』（Cornell University Press）
Sigrid Schmalzer 『Red Revolution, Green Revolution: Scientific Farming in Socialist China』（University of Chicago Press）
Yeonsil Kang 『Bodies as Evidence: Activists and Patients Responses to Asbestos Risk in South Korea』（Science, Technology, and Society (2016)）
Sara Pritchard 『An Envirotechnical Disaster: Nature, Technology, and Politics at Fukushima』（Environmental History (2012)）
Fairbank, John K 『Trade and Diplomacy on the China Coast: The Opening of the Treaty Ports, 1842-1854』（Harvard University Press）
Wakeman, Frederick, Jr. 『Strangers at the Gate: Social Disorder in South China, 1839-1861』（University of California Press）
Yen Ching-hwang 『Coolies and Mandarins: China’s Protection of Overseas Chinese during the Late Ch’ing Period (1851-1911)』（Singapore University Press）

[授業外学修（予習・復習）等]

The students are expected to read the assigned materials.

（その他（オフィスアワー等））

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Decisions, Orderings, and the Nation: Japan at Play										

[授業の概要・目的]

This course deals with leisure and play as matters of concern for politicians and many other actors in and outside Japan. Taking cues from relational materialism and a transcultural approach to studying culture as ordering difference, this course seeks to engage actors with an ideal narrative about Japan and Japanese culture (e.g., expressed in leisure policies), "how they ought to be." The goal is to analyze the decision-making as well as the mechanisms, embodiments, and performances employed to reach that ideal. Such ideals and strategies are always in conflict with other ideals, thus, always limited. Of interest are such orderings that actors are able to sustain and, of course, where they fail.
The picture of agents making a move and others a counter move, so that the outcome is not random chaos but that still no one has complete control, the metaphor of society or culture as some kind of game, framing social interactions as a game, asks to be taken seriously. Thus, this class includes a group project of designing a gaming simulation about leisure policies and nation-branding, such as a card game about tourism and taxes or temples and commodification.

[到達目標]

First and foremost, students will learn step-by-step protocols for critically reading existing literature and studies, followed by a framework for analyzing cultural phenomena by focusing on describable attempts of ordering (discourses, institutions, embodiments) that produce these phenomena using the example of Japan in a transcultural context.

[授業計画と内容]

Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants and will be announced in class. Parts 2 and 3 may be organized as block sessions or held asynchronously with student presentations as videos on demand.
(1) Introduction [3 weeks]
Lecture on Cultural Studies as the study of ordering modes (theoretical concepts, basic terminology, methodological protocols) and "play" as an object of inquiry, followed by an introduction to debates about the "Japaneseness" of leisure activities in Japanese-language discourse (since the 1960s). Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises.
(2) Readings and Discussion [5 weeks]
Students will read studies on play, leisure, and work taken from different moments in Japanese history (e.g., Meiji Restoration, prewar tourism, postwar income policies, lifestyle superpower, moratorium people, or Akihabara redevelopment) to present and discuss these readings in class. The focus lies on the question of if -- and how -- these readings exemplify studies of ordering modes and how different approaches may lead to different conclusions.
(3) Exercises [6 weeks]
Building on the previous sessions and depending on the number of participants, students will formulate and

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

conduct exercises on current issues in Japan in which play is ordered and managed. In a group project, they will develop gaming simulations to understand cases of ordering.
(4) Conclusion and Feedback [1 week]

[履修要件]

3rd year or above (3回生以上)

[成績評価の方法・観点]

Homework (20%), exercise and presentation script (50%), feedback (10%), active participation (20%).

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

The course materials as well as lecture slides will be made available via the course webpage.
The course takes guiding cues from
Kendall, Gavin, and Gary Wickham. 2001. Understanding Culture: Cultural Studies, Order, Ordering. London, Thousand Oaks: Sage.
Law, John. 1994. Organizing Modernity. Oxford: Blackwell.
Leheny, David. 2003. The Rules of Play: National Identity and the Shaping of Japanese Leisure. Ithaca: Cornell University Press.
Reading these books is not mandatory but the course will reference certain points of their discussion.

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterward, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.
Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Historical Seminar: Animals and Borders										

[授業の概要・目的]

This seminar introduces students to issues related to the historical study of animals. Animal history and the wider category of animal studies are areas of increased academic and popular interest, yet both encompass a wide range of approaches. In this course, we will examine persistent historical problems: defining (human and non-human) animals, living alongside them, working with them, fighting against them, memorializing them, and eating them. The course will make use of the explosive growth in English-language studies of animals in and around the Japanese archipelago. In so doing, it will allow students to consider how human-animal relationships have changed alongside political, cultural, and economic developments in Japan, East Asia, and the Pacific Ocean world.

Classes will include discussion of books, articles, and films. The final project asks students to research the regional and transnational histories of institutions, spaces, and practices related to animals in the Kyoto area.

[到達目標]

After this course, students should:
* better understand the methods, problems, and assumptions of animal history
* undertake individual field and archival research
* communicate ideas during in-class discussion and through written reports

Study Focus: Society, Economy and Governance.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[授業計画と内容]

Course Outline

1. Introduction
2. Archives and Animal Traces
3. Multispecies Approaches
4. Animal Agency, Animal Actors
5. Rethinking Domestication
6. Disease
7. Pest: Invasiveness
8. Pets: Companionship and Kinship
9. Insects ("Bugs") at the Center
10. Encounters, Borderlands, and Borderwaters
11. Conservation: Knowing "Wildlife"
12. Extinction Stories
13. The Zoo
14. Fieldwork

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)

15. Presentations/Feedback

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance, participation, reading responses, and presentations in class (30%), short book analyses (30%), and final research project and project presentation (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

授業中に指示する

At least one copy of the books will be available in the library and through the university's online subscriptions, although in some cases (particularly during the weeks where you are responsible for presenting) it may be advisable to purchase a new or used copy for yourself.

In other cases, articles will be available for download through the university library or distributed before class.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・Students are required to read through assigned readings and prepared for the discussions and presentations each week.

・Students are expected to actively participate in preparations for the final project.

（その他（オフィスアワー等））

・Office hours will be held once a week at a fixed time (to be determined) and by appointment.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET36 3JK21 LE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture) Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	英語
題目	Transnational Japanese History Seminar: Migration, Labor, and Environment										

[授業の概要・目的]

This seminar-style course introduces students to recent approaches to the transnational study of Japanese history. In fall 2021, our focus will be on issues of migration, labor, and the environment. We will read about the history of diaspora and settler colonialism while delving into more intensive study of places beyond what might form the typical geographic focus of a course on Japanese history. In addition, the seminar is set up to be an interactive, hands-on introduction to ways of doing historical research in multi-lingual archives. A major feature of past iterations of this course has been its collaborative format, which brings students at Kyoto University into conversation with students working in parallel on topics in transnational Japanese history at Zurich University.

(Please note however that the precise outlines of the collaboration for 2023-24 are not clear yet.)

[到達目標]

By the end of the course, students will:

Better understand recent trends in the study of transnational Japanese history, particularly with regard to the history of migration, labor, and the environment.

Have greater familiarity with the process of multi-lingual historical research. This includes ways of finding sources, reading them, forming arguments, and addressing ongoing academic debates.

Improve their ability to express themselves in speech and in writing.

[授業計画と内容]

Week 1: Introduction
Week 2: Approaches to Diaspora and Settler Colonialism
Week 3: Settler Colonialism in the Japanese Empire
Week 4: Diaspora and Settler Colonialism beyond the Empire
Week 5: Hawaii**
Week 6: Singapore**
Week 7: The World of the Arafura Sea**
Week 8: Central and South America**
Week 9: The North American Pacific Northwest**
Week 10: Returning to Categories of Diaspora and Settler Colonialism
Weeks 11-13: Working on Individual Research Projects: Consultations and Peer Review
Weeks 14-15: Final Presentations

** These meetings will involve hands-on discussion and collaborative assignments with Zurich University students. Due to time differences, the goal is to hold these classes in the evening starting at 18:00. Please keep

Research 1~3-Seminar (KBR/SEG)(Lecture)(2)へ続く↓↓↓

this in mind.

(Please note that the content and order of topics is subject to change.)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Evaluations will be based on attendance (20%), discussion participation (20%), reading responses (20%), and a final research paper (40%).

To JDTS/MATS students: This is course can be taken as either reduced (4 ECTS) or full seminar (8 ECTS). Please indicate your ECTS requirement to the teacher.

[教科書]

Most readings will be supplied as PDF files. Additional books will be available in the library.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

This course is open both to undergraduate and graduate students, but please note that the course will feature a substantial amount of discussion in English. If you have any questions about the course please contact the instructor.

（その他（オフィスアワー等））

Weekly office hours will be held along with individual consultations by request.

Please be aware that the current plan is to hold 5 of the course meetings in the evening starting at 18:00 to coordinate with students at Zurich University. Please refer above to the course plan and let the instructor know if you have any additional questions or concerns.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

学部共通科目97

科目ナンバリング	U-LET36 3JK26 SE36										
授業科目名 <英訳>	Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium) Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　Bjorn-Ole Kamm				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	演習	使用言語	英語
題目	Actors, Processes, and Networks: Studying (Sub-) Cultural Practices										

[授業の概要・目的]

Research into (sub-) cultures, for example, fan studies, often focuses either on the content or on the communities of fandom, at times essentializing involved persons or drawing borders around things that are highly interconnected and dynamic. Cultural practices, however, are performative, meaning that they exist through “doing,” through recreating, tracing the network of involved human and also non-human elements. With a focus on doing, transforming, and ordering, this course borrows from Wittgenstein, Foucault, Butler, Schatzki, and Reckwitz but favors the heuristic device of the network: Practices are drawn as networks that have gained a certain durability that makes them recognizable for others with the consequence that they can be spoken about and be treated as a resource when doing the practice. A practice-as-network consists of interdependent material and non-material elements encompassing bodies, body parts, bodily movements, materials or things, practical knowledge or know-how/competencies, and concepts/theoretical knowledge of the practice. Practices-as-networks are recursive: With each performance, the network is slightly reconfigured. With the example practice-as-network often abridged as role-playing games, this course introduces students to a (trans-) cultural studies approach of practices, actors, and processes.

[到達目標]

Building on a Wittgensteinian approach to cultural practices, students will acquire knowledge and skills in how to develop a matching research design for studies sensitive to the role of actors and materials alike. They will be introduced to theories of agency, networks, and practices on a general level, and learn about their concrete application with the example of non-digital role-playing games, focusing on games in and from Japan but in a global context.

[授業計画と内容]

Course sessions will be held in accordance with the following general structure. A detailed plan for each class will be determined depending on the number of and the feedback from the participants and will be announced in class. Student presentations may be organized as block sessions or as videos on demand followed by discussion.
The first five sessions introduce students to actor, network, and practice theories as well as the case subject, roleplaying games. Students will further be provided with guidelines for class preparation and exercises. Subsequent sessions look at the transcultural history of role-playing game practices, at game design theories, such as the Big Model, discussions about inclusion and exclusion among player groups, and detail tools for practice-oriented studies at home in the qualitative social sciences and engaging online as well as offline spheres of interaction.
Students apply the tools they learned to a subject of their own research interest in the following five sessions, culminating in student presentations. The last five sessions of the semester will concern a review of the student projects, collecting additional data, and the writing of term papers about their research.

Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium) (2)へ続く↓↓↓

Research 1~3-Seminar (SEG/VMC)(Colloquium) (2)

[履修要件]

3rd year or above (3回生以上)

[成績評価の方法・観点]

Students will have much flexibility in gaining points through various tasks they need to fulfill during the semester, such as actively guiding the discussion, translating course material into their own understanding, or presenting a topic in class. Evaluation depends on the number of fulfilled quests.

[教科書]

Fine, Gary Alan. 1983. Shared Fantasy: Role-Playing Games as Social Worlds. Chicago: University of Chicago Press.
Foucault, Michel. 1991. The Foucault Effect. Chicago: University of Chicago Press.
Kamm, Bjorn-Ole. 2020. Role-Playing Games of Japan: Transcultural Dynamics and Orderings. New York: Palgrave Macmillan.
Latour, Bruno. 2005. Reassembling the Social. An Introduction to Actor-Network-Theory. Oxford: Oxford University Press.
Law, John, and Annemarie Mol, eds. 2002. Complexities: Social Studies of Knowledge Practices. Durham: Duke University Press.
Schatzki, Theodore R. 1996. Social Practices: A Wittgensteinian Approach to Human Activity and the Social. Cambridge: Cambridge University Press.
Zagal, Jose Pablo, and Sebastian Deterding, eds. 2018 Role-Playing Game Studies: Transmedia Foundations. New York: Routledge.
Excerpts will be provided in class.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
The course materials as well as lecture slides will be made available via the course PandA webpage.

[授業外学修（予習・復習）等]

Regular homework as well as exercises will play an important role in this course. Participants need to prepare one reading before each class session and are asked to write short comprehension essays afterward, both of which will require at least one hour. Participants present at least one topic in class, which also necessitates preparation outside of class.

（その他（オフィスアワー等））

Consultation (office hours) by appointment. The course webpage will be available to download the course material.
Please contact Bjorn-Ole Kamm <kamm.bjornole.7e@kyoto-u.ac.jp> for any questions regarding this course syllabus.

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。